

平成27年度 学校教育現場との連携プロジェクト研究報告書

習得した知識の活用場面を組み込んだ社会科授業の創造
－「分かる」「考える」過程における思考を通して－

研究報告書

2016年3月

研究代表者 檀原市立白檀中学校 谷 聡

目 次

I. 研究の目的

- 1. 研究の目的と方法 1
- 2. 研究テーマの設定 1
- 3. 研究テーマへのアプローチ 2
- 4. 研究仮説 3

II. 習得した知識の活用場面を組み込んだ中学校社会科地理的分野授業モデル 5

III. 習得した知識の活用場面を組み込んだ中学校社会科歴史的分野授業モデル 21

IV. 習得した知識の活用場面を組み込んだ中学校社会科公民的分野授業モデル 38

V. 成果 50

1. 地理的分野 経済発展から見るアジア州の授業
－知識の段階的な成長を目指して－
2. 歴史的分野 習得した知識を活用し、室町時代を大観する授業
－比較・関連の思考を通して－
3. 公民的分野 効率と公正の視点を中心とした現代社会の見方や考え方の授業
－社会問題を通してみる効率と公正－

I. 研究の目的

1. 研究の目的と方法

本研究は、社会系教科教育学会の学校教育現場との連携プロジェクト「授業を極める！学校教育現場とともに！」として行ったものである。

本研究の目的は、米田豊の「探究Ⅰ(分かる過程)」「探究Ⅱ(考える過程)」の授業構成理論を活用し、生徒の思考力の育成ために思考の方法に着目した授業を開発し実践することである。

研究の方法は、以下のとおりである。

- (1)「習得」「活用」「探究」を視点にした社会科授業構成理論の基礎的研究
- (2)「思考」に着目した、社会科授業構成理論の先行研究の整理
- (3)習得した知識の活用場面を組み込んだ中学校社会科地理的分野、歴史的分野、公民的分野の授業モデルの開発、実践

2. 研究テーマの設定

研究テーマ

**習得した知識の活用場面を組み込んだ社会科授業の創造
－「分かる」「考える」過程における思考を通して－**

社会科は「社会認識形成を通して市民的資質を育成する」教科である。社会認識形成とは、社会のしくみが「分かる」ことであり、社会のできごとを原因と結果の関係でとらえることである。市民的資質とは、平和で民主的な国家・社会の形成者として正しい判断や行動のできる能力のことである。本研究グループでは、この社会認識形成を通して市民的資質を育成するため、岩田一彦の概念探究・価値分析型の社会科授業構成理論と米田豊の探究Ⅰ・探究Ⅱの社会科授業構成理論に依拠し、研究を進めた。

2007年の学校教育法の一部改正に伴って第30条2項に「…基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。…(略)」と学力の要素が示された。

また、中学校学習指導要領第1章 総則の第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項では「各教科の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに生徒の興味・関心を生かし、自主的・主体的な学習を促されるよう工夫すること。」と、習得した知識及び技能を活用した問題解決的な学習の重視が示された。

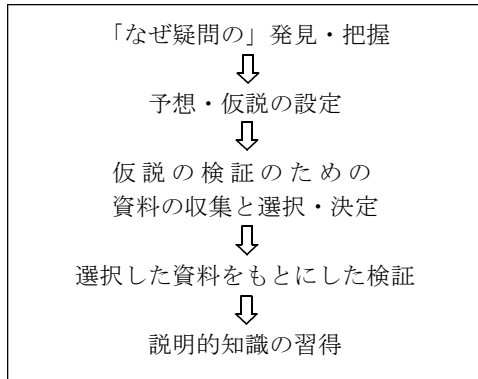
そこで、研究テーマを「習得した知識の活用場面を組み込んだ社会科授業の創造－「分かる」「考える」過程における思考を通して－」と設定した。

3. 研究テーマへのアプローチ

(1) 「分かる過程」と「考える過程」

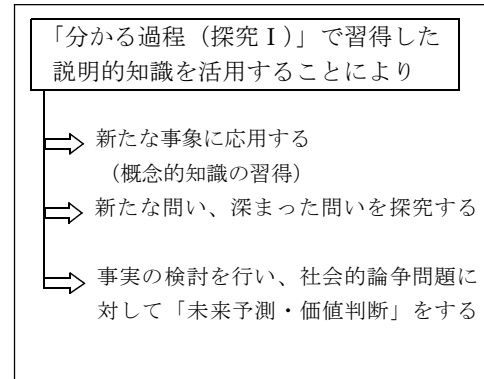
米田豊は、社会認識を育成する「分かる過程」を「探究Ⅰ」とし、図1のように示した。また、市民的資質を育成する「考える過程」を「探究Ⅱ」とし、図2のように示した。

【分かる過程（探究Ⅰ）】



(図1: 「習得・活用・探究」を組み込んだ
米田 豊の社会科授業構成理論を基に作成)

【考える過程（探究Ⅱ）】



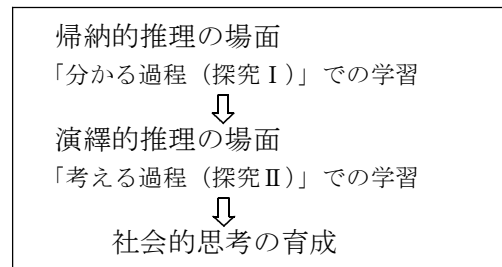
(図2: 「習得・活用・探究」を組み込んだ
米田 豊の社会科授業構成理論を基に作成)

「分かる過程」では、なぜ疑問を追究し、その答えである説明的知識の習得を目指す。「考える過程」では、習得した説明的知識を活用し、新たな課題追究や価値判断を行う。習得した知識の活用場面を組み込んだ授業は、この「分かる過程」「考える過程」の授業を基本としている。

(2) 帰納的推理や演繹的推理を意図的に学習場面に組み込んだ授業づくり

「分かる過程」においては帰納的推理を、「考える過程」においては演繹的推理を意図的に学習場面に組み込み、社会的思考の育成を図ることが、今後の社会科授業に求められることの一つである。

社会科授業における推理とは、原因から結果を推理させたり学習や結果から原因を推理させたりする学習である。このような学習活動が社会科の思考活動の中心になる。また、推理の過程の中核



(図3: 「習得・活用・探究」を組み込んだ
米田 豊の社会科授業構成理論を基に作成)

となるのが帰納的推理や演繹的推理である。社会科授業で帰納的推理や演繹的推理を意図的に学習場面に組み込むことが生徒の社会的思考を育てることにつながる。帰納的推理を用いる学習では、個別的な事象をいくつか集め、一般的な傾向から法則性を推理することになる。つまり、「分かる過程」において、習得したいくつかの説明的知識を基に、他の多くの社会事象に当てはまる応用範囲の広い説明的知識（概念的知識）を習得するための学習場面を組み込むことである。演繹的推理を用いる学習では、習得した応用範囲の広い説明的知識（概念的知識）を他の社会事象に応用する学習場面を組み込むことである。【図3】のように「分かる過程」「考える過程」に帰納的推理や演繹的推理の学習場面を意図的に組み込み、思考を育てる授業づくりや単元構成を目指している。

(3) 「思考の方法」を意図的に学習場面に組み込んだ授業づくり

「分かる過程」においては、なぜ疑問の探究過程で様々な資料を活用し、問題解決を行うことになる。つまり、探究過程で資料にある情報を活用することで「思考」が働くことになる。「考える過程」では、新たな事象に応用する場面、「未来予測・価値判断」する場面においてその根拠を示すために資料にある情報を活用することで「思考」が働くことになる。米田は、「思考の方法」について【表2】のように提言している。

【表2：思考の方法】

学習過程	思考の方法	思考の階層性の具体
<input type="checkbox"/> 学習問題の発見・把握 <input type="checkbox"/> 予想仮説を立てる	「分類」 「並べ替え」 「比較」	社会事象に関する情報について、観点を決め、分類したり、並べ替えたり、比較したりする作業。
<input type="checkbox"/> 検証する	「比較」 「関連付け」	資料から読み取ったことを確定し、関連付ける作業。 一つの資料から複数のことを読み取り関連付ける場合もあれば、複数資料から読み取り、関連付ける場合もある。
<input type="checkbox"/> 検証した結果をまとめる	「総合」 「再構成」	検証した結果を社会事象の解釈や意味付けを行い、説明的知識として整理するために、総合したり、再構成したりする作業。
<input type="checkbox"/> 概念化する	「応用」 「当てはめ」	説明的知識として整理したものを他の社会事象に応用したり、当てはめたりして概念的知識として整理する作業。

今回はこれを基に、特に「比較」及び「関連付け」を中心に「思考」を意図した授業づくりを目指す。

なお、本研究では、米田の理論に依拠し、「比較」を資料から読み取った情報と子どもが既にもっている情報（既習知識や生活経験）とを比べること。また、資料から読み取った二つ以上の情報を比べることとする。「関連付け」は、資料から読み取った情報と子どもが既にもっている情報（既習知識や生活経験）とを関連付けること。また、比較した二つ以上の情報間の関係性を見出すこととする。

4. 研究仮説

これまでのことを踏まえて、本研究では次の研究仮説を設定し研究を進めた。

習得した知識を活用する場面を授業に意図的・計画的に組み込み「思考の方法」に着目した授業を設計すること。さらに、思考の過程が表れる板書を作成することで、生徒の思考力はより高められ、説明力の大きい質の高い知識を習得することができる。

(1) 習得する知識の明示

習得した知識を活用するためには、習得すべき知識をあらかじめ授業者が整理しておかなければならない。そのため、今回は単元における習得すべき知識を「知識の構造図」という形で明示した。

(2) 板書の工夫

板書は、生徒の思考の過程が表現されたものである。そこで、板書については、思考の過程を意識し、1時間の授業の流れが分かるように工夫した。例えば「比較」や「関連付け」の思考が可視化できるような板書を目指した。

また、板書計画と実際の板書とを比較することで、研究協議の際の授業仮説の有効性の検証に役立てる。

【参考文献】

- ①文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版 2008.9
- ②岩田一彦『小学校社会科の授業設計』東京書籍 1991.3
- ③岩田一彦『社会科固有の授業理論30の提言』明治図書 2001.10
- ④米田 豊 『「習得・活用・探究」の社会科授業&評価問題プラン』明治図書 2011.6
- ⑤岩田一彦・米田 豊編著『「言語力」をつける社会科授業モデル 中学校編』明治図書 2009.9

Ⅱ. 習得した知識の活用場面を組み込んだ中学校社会科

地理的分野授業モデル

経済発展から見るアジア州の授業

－ 知識の段階的な成長を目指して －

1. 研究仮説

本研究では、次の仮説を検証することを目的とする。

前時までに習得した知識を予想を立てる際のモデルとして活用させることで習得した知識を段階的に発展させ、より多くの具体的事象について説明可能な質の高い知識を習得させることが可能となる。

2. 学習内容

アジア州の地域的特色を、「経済発展」という主題を設けて考察させる授業づくりを行う。その際、主題を通して見えるアジア州の地域的特色を指導案に明示する。

第1時では、アジア州全体を概観し、アジア州の各地域が近年、経済発展が著しいことを知る。このことから「なぜ、アジア州では、近年、経済発展している国、地域が多いのだろう」という単元を貫く問いを設定する。

第2時から第5時では、「東アジア」、「東南アジア」、「南アジア」、「西アジア」のそれぞれの経済発展の原因と結果について理解する。本時は第4時の「南アジア」である。本時の学習課題「なぜ、インドは近年、急速に経済発展をしているのだろう」を追究し、「南アジア」の経済発展の原因と結果について理解する。

3. 研究テーマへのアプローチ

前時までに行った学習過程で習得した知識を本時の予想を立てる際のモデルとして活用させる。このことにより習得した知識を段階的に発展させ、より多くの具体的事象について説明可能な質の高い知識を習得させることを目指す。

アジア州の経済発展には、共通する要素がある。例えば、人口が多く豊かで安価な労働力が得やすいことや、国内市場が大きいことである。また、外国企業の受け入れや農業の近代化に成功したことなども共通している。これらのことを、「東アジア」と「東南アジア」の地域の学習で生徒は習得する。

本時である第4時「南アジア」での学習では、学習課題「なぜ、インドは近年、急速に経済発展をしているのだろう」を設定し、前時までに習得した知識をもとに予想・仮説を立てる。「南アジア」の経済発展の理由は、今までの学習で習得した知識のみでは説明できない。そこで、前時までに習得した知識に加え、イギリスの植民地であったため英語の習得が容易であることや高い教育水準による「IT産業の成長」など南アジアに特有の理由を付加することが必要になる。このように本時の課題を追究していく過程で資料から読み取った情報と前時までに習得した知識とを比較したり関連付けたりすることで、習得した知識を段階的に発展させ、より多くの具体的事象について説明可能な質の高い知識に高められる。また、このことにより生徒の思考力は高められる。

社会科(地理的分野)学習指導案

日 時 平成 27(2015)年 9 月 16 日(水) 第 2 校時

学 級 1 年 4 組 34 名(男子 16 名, 女子 18 名)

指導者 天理市立南中学校 島村 果苗

1. 単元名 経済発展から見るアジア州の授業 – 知識の段階的な成長を目指して –

2. 単元設定の理由

(1) 教材観

現行学習指導要領地理的分野 2 内容(1)「世界の様々な地域」における「ウ 世界の諸地域」の学習においてアジア州を取り上げる。アジア州には、世界人口の約 6 割が住んでおり、豊富な労働力と人件費の安さを背景に外国企業が進出してきている。近年では、農業の近代化や都市での工業化が進み、多くの人々が農村から都市に移り住んでいる。また、豊富な鉱産資源や高い教育水準を背景に産業を発展させ GDP を伸ばしている国や地域も多い。

そこで、本単元では「なぜ、アジア州では、近年、経済発展をしている国、地域が多いのだろう」という問いを立て、「経済発展」をキーワードにアジアの地域的特色を捉えさせる学習を構想する。

(2) 生徒観

第 1 学年の生徒は、社会科の授業に関して興味・関心をもって取り組む生徒が多い。また、自分の意見をしっかりとって発言できる生徒も多い。しかし、社会科の授業を行う上での次のような課題がある。

ワークシートに、教科書や資料集から読み取ったことを書き込む作業は、時間をかけずにできている。しかし、情報間の関係を深く考え、社会事象の原因と結果の関係や法則性を示す知識を習得するということは十分にできていない。これらのことから、社会科の授業を通して、資料を積極的に活用し、読み取った情報を比較・関連付け、多面的・多角的に考察する能力を育てる必要がある。

(3) 指導観

第 1 時では、アジア州を概観する。第 2、第 3 時では、中国やシンガポールが経

経済発展をとげた原因を追究し、原因と結果の関係を示す説明的知識を習得する。第2・第3時に習得した説明的知識を、第4時では予想、仮説を立てる際のモデルとして活用させる。また、前時までに習得した知識と本時で習得する知識を比較したり関連付けさせたりして、より説明力の大きい知識を習得させる。さらに、第5時では、本時までに習得した説明的知識を活用させ、UAEの経済発展の原因を探究させる。このように既習の説明的知識を他の事例に当てはめて検証することで、一般性の高い知識に成長させることができる。当初の知識では説明しきれない要素が追加されることによって、場面に応じた知識を段階的に習得させることができる。このような知識の段階的な成長を意図した指導を本単元で目指す。

3. 単元の指導計画と評価規準(全6時)

(1) 単元の指導計画

- 第1時 アジア州を概観する
- 第2時 経済発展からみる東アジア（中国を例に）
- 第3時 経済発展からみる東南アジア（シンガポールを例に）
- 第4時 経済発展からみる南アジア（インドを例に） 【本時】
- 第5時 経済発展からみる西アジア（UAEを例に）

(2) 単元の目標

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
○経済発展から見えるアジア州の地域的特色について意欲的に追究し、捉えることができる。	○アジア州の地域的特色を、経済発展という主題を基にし、習得した知識を比較、関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	○アジア州に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったりまとめたりすることができる。	○アジア州について、経済発展という主題から見える人口や面積等の地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができる。

(3) 評価規準

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第一時	○アジア州の人口、自然環境、産業、生活、文化から見える特色について、意欲的に追究しようとする。		○資料からアジア州の各地域が経済発展していることを読み取る。	
第二時		○資料から読み取った情報を比較したり、関連付けたりし、中国の経済発展の理由を考察している。		○中国は、鉱産資源が豊富であり、また、人口が約13億人で、国内市場が大きい。経済特区をきっかけにして、経済発展したことを理解し、その知識を身に付けている。

第三時		○資料から読み取った情報を比較したり、関連付けたりして、シンガポールの経済発展の理由を考察している。		○シンガポールは、市場経済を積極的に導入している。また、教育にも力を入れており、国家予算の30%を教育費に充てている。これらのことから、シンガポールは経済発展したことを理解し、その知識を身に付けている。
第四時【本時】		○前時までに習得した知識を基に、インドの経済発展の理由について予想を立てている。 ○前時までに習得した知識と本時で活用する資料から読み取った情報とを関連付けて、インドの経済発展の理由を考察している。		○インドは、鉱産資源が豊富であり、人口が約12億人で国内市場が大きい。外国企業を積極的に受け入れることによって自国の工業化を進めてきた。加えて、教育水準の高さや準公用語が英語であることなどが影響しIT産業を中心とした企業が急速に発展したことを理解し、その知識を身に付けている。
第五時		○前時までに習得した知識と本時で資料から読み取った情報を関連付けて、UAEの経済発展の理由を考察している。		○UAEは、豊富に産出される石油を輸出することで、経済を成長させてきた。中東最大級の経済特区を設け、外国企業の誘致に力を入れている。また、観光業・金融業・流通業にも力を入れ、経済を成長させていることを理解し、その知識を身に付けている。

4. 学習指導過程

第1時 アジア州を大観する

(1) 第1時の目標

- アジア州の人口、自然環境、産業、生活、文化から見える特色について意欲的に追究しようとすることができる。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 資料からアジア州の各地域が経済発展していることを読み取ることができる。 【資料活用の技能】

(2) 第1時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	・アジア州を概観する。	○次の3枚の写真に共通する州を答えましょう。 □白地図に、アジア州の地形を書きましよう。	・アジア州		△中国、シンガポール、インドの写真

展 開	<ul style="list-style-type: none"> アジア州の様子について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地図帳からアジア州に共通する特徴ある資料を見つけましょう。 ○統計資料の世界の主な工業製品を生産している主な国はどこか見つけましょう。 ○中国の現在と過去の資料を比較しましょう。 ○アジア州の国々の経済の様子はどのように変化しているのか調べましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積が広い国がある。 ・中国、インドは人口が多いこと。 ・西アジアには石油資源が多い。 ・中国 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国別統計の中にある人口や面積、人口密度、農産物や鉱産資源等に注目するよう指示する。 ・パソコン、携帯電話、デジタルカメラの項目に着目させる。 ・過去の地図帳や世界国勢力図会を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> △地図帳巻末 △地図帳巻末 △古い地図帳からの資料
	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の単元を貫く問いを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を貫く問いを考えましょう。 			
<p>【単元を貫く問い】</p> <p>なぜ、アジア州では、近年、経済発展をしている国、地域が多いのだろう。</p>					
ま と め	<p>アジア州には、世界人口の約6割が住んでいる。また、鉱産資源も豊富である。このことを背景に、近年、経済発展をしている国、地域が多い。</p>				

第2時 経済発展からみる東アジア（中国を例に）

（1）第2時の目標

- 資料から読み取った情報を比較したり、関連付けたりして、中国の経済発展の理由を考察することができる。 **【社会的な思考・判断・表現】**
- 中国は鉱産資源が豊富であり、また、人口が約13億人で、国内市場が大きい。経済特区をきっかけにして、経済発展したことを理解し、その知識を身に付けている。 **【社会的事象についての知識・理解】**

（2）第2時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の経済発展の様子について写真から知る。 ・本時の学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次の3つの写真に共通するものは何でしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本製。 ・爆買い。 		<ul style="list-style-type: none"> △「錦鯉」「目薬」「爆買いのようす」の写真 △中国 GDP 表
		<p>なぜ、中国は、経済発展したのだろう。</p>			

展 開	・学習課題について予想する。		・資源が多いから。 ・人が多いから。		△地図帳
	・資料を基に予想を確認する。	○中国には、どのような鉱産資源があったのだろう。 ○中国の人口ピラミッドから読み取れることを整理しましょう。 ○人口と経済にはどのような関係があるのでしょうか。 ○人件費が安いと製品の価格はどうなるのでしょうか。	・海外の企業がたくさん工場を作っているから。 ・石炭、鉄鉱石、石油など。 ・高齢者が少ないから。 ・若者が多い。 ・たくさん生産できる。 ・安い製品が作れる。	・前時の内容を想起させ、確認させる。 ・人口構成に着目させる。 ・豊富な労働力があり、人件費が安いことを伝える。 ・海外企業が安い人件費を求め経済特区に進出したことと中国が海外の技術を取り入れようとしたことを補説する。 ・海外へ旅行したり、海外製品を買ったりするほどに個人の収入が増えていることを伝える。	△地図帳 △中国の人口ピラミッド △中国と日本の賃金比較の表 △沿岸部と農村部の写真比較
	・導入時の写真を基に中国の経済発展について知る。				
	・中国の経済発展の理由をまとめる。				
ま と め	中国は、鉱産資源が豊富であるため、それらを活かして安い工業製品を作ることができる。人口は約 13 億人であり、国内市場が大きい。また、平均年齢が若く、企業は若い労働者を安い給料で大量に雇い、他国よりも安い商品を作っている。経済特区を中心に海外の会社や工場が建てられている。以上の理由から、中国は経済発展した。				

第3時 経済発展からみる東南アジア（シンガポールを例に）

（1）第3時の目標

- 資料から読み取った情報を比較したり、関連付けたりして、シンガポールの経済発展の理由を考察することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- シンガポールは、海外の資本を呼び寄せるために、港湾や空港を整備して市場経済を積極的に導入している。きれいな町を維持し、海外からの移住者を呼び寄せるためにポイ捨てなどに対する細かな罰則を定めている。人材育成のため教育の面に力を入れている。以上の理由から、シンガポールは経済発展したことを理解し、その知識を身に付けている【社会的事象についての知識・理解】

（2）第3時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
----	------	--------------------	------------	---------	----

導 入	<ul style="list-style-type: none"> シンガポールの経済発展について、資料から知る。 本時の学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これらの写真はどのような様子を示しているのでしょうか。 ○グラフから、何が読み取れるでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 高級ホテル。 環境美化の呼びかけ。 国民一人当たりのGDPが高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 近年、観光産業に力を入れていることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> △シンガポールにある高級ホテルと罰金Tシャツの写真 △シンガポールのGDPの推移グラフ
なぜ、シンガポールは、経済発展したのだろうか。					
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題について予想する。 中国とシンガポールの違いについて考える。 資料を基に班で予想を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中国とシンガポールの違うところはどうなところでしょうか。 ○なぜ、面積が小さく、人口も少ないシンガポールが経済発展したのはなぜでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの資源があるから。 人が多いから。 中国は面積が大きく、シンガポールは面積が小さい。 中国は人口が多く、シンガポールは人口が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> シンガポールは中国のように国土も大きくなく、資源が豊富ではないことを確認させる。 シンガポールの教育に関する資料を見て、読み取れることをグループで考えるよう指示する。 シンガポールの物流量の資料と空港を24時間フル稼働させているようすの写真から、読み取れることをグループで考えるよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> △1人あたりのGDP表 △TIMSSの結果 △「シンガポールの教育」コラム △「シンガポールの物流」 △空港の写真
<p>(A グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の面では、言語教育に力を入れており、英語をネイティブレベルで話すことができるから。 					
<p>(B グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他国からヒト・モノ・カネを呼び寄せるための環境整備（空港・港湾）づくりに力を入れてきた。 					
<p>(C グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 快適に過ごせるようにきれいな街を維持するための厳しい法律をつくったから。 					
<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合った内容を発表する。 					
ま と め	<p>シンガポールは、海外の資本を呼び寄せるために、港湾や空港を整備して市場経済を積極的に導入している。きれいな町を維持し、海外からの移住者を呼び寄せるためにポイ捨てなどに対する細かな罰則を定めたり、人材育成のための教育に力を入れたりしている。以上の理由から、シンガポールは経済発展した。</p>				

第4時 経済発展からみる南アジア（インドを例に）

（1）本時の目標

- 前時までには習得した知識を基に、インドの経済発展の理由について予想を立てることができている。また、前時までには習得した知識と本時で活用する資料から読み取った情報を関連付けて、インドの経済発展の理由を考察している。

【社会的な思考・判断・表現】

- インドは、鉱産資源が豊富であり、人口が約12億人で国内市場が大きい。外国企業を積極的に受け入れることによって、自国の工業化を進めてきた。加えて、教育水準の高さや準公用語が英語であることなどが影響しIT産業を中心とした企業が急速に発展したこと理解しその知識を身に付けている。

【社会的事象についての知識・理解】

(2) 本時の授業仮説

前時までに習得した知識と資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、インドの経済発展の理由を思考させることで、知識を段階的に発展させることができる。

(3) 本時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> 写真から気付いた点を発表する。 インドの経済発展の様子について、資料から知る。 本時の学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これは、日本のアニメです。最近、インドで、リメイクされました。日本版との違いを、答えましょう。 ○なぜ、最近になって、巨人の星がインドで放送されたのでしょうか。 ○20年前と現在のインドの写真を比較して読み取れることは何でしょうか。 ○グラフからどんなことが読み取れるでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のアニメは野球だが、インドのアニメは野球ではない。 昔の日本と今のインドが似ているから。 20年前の写真は道が整備されていない。 最近の写真は近代的なビルが多く建っている。 インドの1人あたりのGDPは、年々上昇している。 	<ul style="list-style-type: none"> イギリスで盛んなスポーツであるクリケットから、インドとイギリスの関係を知らせる。 高度経済成長していた頃の日本と今のインドが似ていることから放映を決めたという担当者の話を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> △「巨人の星」の写真(①～③) △「インド版巨人の星」の写真(④、⑤) △インドの街角昔(⑥)と今の写真(⑦) △インド1人あたりのGDPを示す表(⑧)
なぜ、インドでは、近年、急速に経済発展しているのだろうか。					
展開	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題について予想する。 中国とシンガポールとインドの3つの国の共通点と相違点について考える。 習得した知識を基に予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どのような点が、共通し、どのような点が、相違しているのでしょうか。 ○インドはどのような経済発展をしたのでしょうか。 ○なぜ、インドは近年急速に経済発展しているのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 人が多から。 物が安いから。 外国企業を誘致しているから。 人材育成のために教育に力を入れているから。 観光に力を入れているから。 インドと中国は人が多い。 インドは面積が大きくシンガポールは面積が小さい。 人口構成が中国と似ているところがあるので、中国のような経済発展をしたのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの習得知識を基に予想させる。 世界の国別統計の中にある人口や面積、人口密度、農産物や鉱産資源等にも着目するように指示する。 	

<p>(予想①)</p> <ul style="list-style-type: none"> 働く人が多くて、企業も安い給料で済む。コストが低いので、同じ商品を作るにしても他の国よりもうかりやすいのではないか。 中国と同じように若い人が多いのではないか。 			
<p>(予想②)</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊富な資源を利用して、輸送費を浮かせるために現地に海外からの工場を作ることにより、工業化を進めてきた。 			
<ul style="list-style-type: none"> 予想を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を見て、予想①・②を検証してみましょう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・中国、シンガポールで学んだ知識やインドの各種資料を用い検証するよう指示する。
<p>【活用する資料】</p> <p>△地図帳 P. 24 「インドの地図」 △教 P. 8 「人口の多い国」 △物価のグラフ (⑨) △インドの人口ピラミッドの図 (⑩) △外国企業の進出状況 (⑪) △給与の表 (⑫) △資料集 P. 48② 「南アジアの鉱工業」 △ 「タタとラバンの価格」 (⑬)</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用して、インド独自の経済発展の理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経済発展の理由として、中国やシンガポール以外の要因を資料から見つけてみましょう。 		
<p>【活用する資料】</p> <p>△インド、日本の算数ドリル (⑭) △教育 (⑮) △24時間仕事ができる図 (⑯) △コラム (⑰) △ 「お札のコラム」 △ 「カースト制度」 の図 (⑱) △ 「IT 産業とカースト制度」 のコラム (⑲) △ 「技術者の年収比較」 (⑳)</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・インドの経済発展の理由についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの習得した知識とインドの経済発展をそれぞれ表にまとめましょう。 ○仮説を検証して、分かったことや、後半の資料を使って考えたことを関連付け、インドの経済発展の理由をまとめましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な労働力 ・外国企業の進出 ・鉱産資源が豊富である。 ・教育の水準が高い。 ・準公用語が英語 ・IT 産業がさかんである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で活動するよう指示する。 ・ワークシートの指定された場所に記入するよう指示する。 ・中国・シンガポールの経済発展で学んだ学習内容について、確認する。
まとめ	<p>インドは豊富な労働力があり、人件費が安い。また、国内には多くの鉱産資源が存在しているので、原料の輸送費を浮かし、安い製品をつくることのできる。このような理由からインドに進出する外国企業を積極的に受け入れることによって自国の工業化を進めてきた。加えて、教育水準の高さやアメリカとの時差、準公用語が英語であることから IT 産業が発展した。以上の理由から、インドは、近年、急速に経済発展している。</p>		

第5時 経済発展からみる西アジア（UAEを例に）

（1）第5時の目標

- 前時までに習得した知識と本時で資料から読み取った情報とを関連付けて、UAEの経済発展の理由を考察することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- UAEは、豊富に産出される石油を輸出することで、経済を成長させてきた。また、中東最大級の経済特区を設け、外国企業の誘致に力を入れている。近年は、観光業・金融業・流通業にも力を入れ、経済を成長させている。これらのことを理解し、その知識を身に付けている。 【社会的な事象についての知識・理解】

（2）第5時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される 生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・UAEの経済発展の様子について資料から知る。 ・本時の学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真を見て、気付いたことを発表しましょう。 □グラフから何が読み取れるでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・華やか。 ・まぶしそう。 ・1990年以降、GDPが急速に伸びている。 		<ul style="list-style-type: none"> △ジュメイラビーチ周辺の写真 △UAEの実質GDP推移のグラフ
なぜ、UAEでは、近年、経済発展しているのだろう。					
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に予想を確認する。 ・UAEの経済発展の理由をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業の視点 ○資源の視点 ○人口の視点 ○教育の視点 ○文化の視点 ○経済特区の視点 上記の視点などから予想を確認しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が多い。 ・物価が安い。 ・外国企業を誘致している。 ・人材育成のために教育に、力を入れている。 ・観光産業に力を入れている。 ・IT産業に力を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OPECについてふれる。 ・アジア州で学んだ各国の様子を踏まえ、課題を追究するよう指示する。 ・石油依存型の経済から脱却しようとしていることについて知らせる。 ・ジュベル・アリ・フリーゾーンに世界企業が進出している。 	<ul style="list-style-type: none"> △各国資源のグラフ △UAEの石油産出量 △GDPの石油依存度のグラフ △ドバイ港の写真 △ドバイの街並みと高層ホテルの写真
UAEは、豊富に産出される石油を輸出することで、経済を成長させてきた。石油資源は将来的になくなってしまうため、中東最大級の経済特区を設け、外国企業の誘致に力を入れている。また、観光業・金融業・流通業にも力を入れ、石油に頼らないで、経済を成長させている。					
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の経済発展の様子を基にアジア州の地域的特色を整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> アジア州では、豊富な労働力、人件費の安さ、経済特区などを理由に外国企業が進出してきている。さらに、鉱産資源が豊富な国では原料の輸送費を浮かし、安価な工業製品を多く製造している。また、旧イギリス領では、英語を話す国民も多く、教育を充実させることなどのより、新しい産業分野での人材育成も図っている。以上のような理由などからアジア州では、近年経済発展している国や地域が多い。 </div>				

【参考文献】

- ・岩田一彦・米田豊 編著『「言語力」をつける社会科授業モデル』明治図書 2009
- ・田所伸 『インドー成長する経済-』 2008
- ・中本和彦「世界の地誌・学習材-単元『インド』-」 2015
- ・経済産業省「特異な経済成長を遂げるインド経済の特徴と課題」 2007

5. 研究授業の考察

(1) 成果

①授業構成について

習得した知識の活用場面を授業に組み込むためには、まず、単元や各時間で習得すべき知識を明確にしなければならない。そのために、今回は「単元における知識の構造図」を作成した。これにより、授業者は単元内で習得すべき知識間の関係が一目で見渡せるようになった。また、各時間で習得すべき知識が精選され、単なる知識の詰め込みの授業を脱却することができた。さらに、板書計画においても知識の構造図を活用することにより、これまでより生徒の思考の過程を予測しやすくなった。そのため、実際の授業の板書も1時間の授業の流れが見渡せ、生徒の思考のあとが見えるようなものに近づくことができた。

②比較の思考について

本時において、インドと中国・シンガポールとの共通点・相違点を考えさせることによって比較の思考を行わせることができた。また単元を通じて、比較の思考を意図的に行うことによって、アジア州の各地域に共通の特色を抽出でき、広大で多様なアジア州の地域的特色を大きく捉えさせることができた。

③関連付けの思考について

本時で習得する知識を中国・シンガポールの学習で習得した知識と関連付け、より質の高い知識の習得へとつなげることができた。関連付けの成果が見られる生徒のまとめを以下に示す。

- ◇ 人口が多いと労働者が多くなる。そうすると、いろいろなものを生産することができる。また、面積が広いので、外国からたくさん会社を誘致してきて、いろいろな工場を建てている。そこで、多くの資源を使い、多くの生産物を作っている。さらに、子供の教育に力を入れており、インドの将来につながるようにしている。また、アメリカとの時差もIT産業の分野では大きな強みになっている。
- ◇ 経済発展をしている国は、面積が大きく、人口や資源が多い。人口が多いため、労働者が増えその人たちが安い給料で働いてくれる。教育に力を入れており、いろいろな言語を話すことができる。また、時差を利用して仕事が早く進むように工夫している。その結果、IT産業が盛んとなった。

④知識の段階的な成長について

本時では、インドの経済発展の様子に関わる知識を段階的に習得し、考察することができていた。具体的には、本時の予想では以下のようなものが出た。「人口が多い。」「他の国の技術を取り入れたから。」「理数的な教育に力を入れている。」などがあつた。これは、中国・シンガポールの学習で習得した知識を活用していることの表れである。予想から仮説に高める際に、「面積が大きい分、工場をたくさん建てることができて、いっぱい稼いで、そのお金を子供たちの教育に使って、いい会社を作っている。」「人口が多いので、労働者が豊富で、生産物がたくさんできるから。」という内容があつた。これは、習得した知識の関連付けができていたといえる。

(2) 課題

①授業構成について

本時において、板書計画と実際の板書に違いが生じた。授業のまとめ部分であるインドの経済発展の理由をワークシートに書き込み発表する時間が足りずに、大部分の生徒が授業後の課題となった。より発問の内容を吟味し、資料の選択、提示方法を再考することが必要である。

②比較の思考について

単元の終末では、アジア州の経済発展の共通性を見つけることによってある程度、アジア州の地域的特色を捉えさせることができた。しかし、やはりアジア州は、資源の多い国と少ない国など他の州以上に多様性があり、生徒にとっては、学習が難しい地域と言える。そこで、アジア州が、教科書で世界の諸地域学習の最初に出てくるか

らといって、最初に扱うのではなく、他の州を学習した後に学習する方が、負担が少なく、より設定した目標に到達しやすい授業ができるのではないかと考える。

③関連付けの思考について

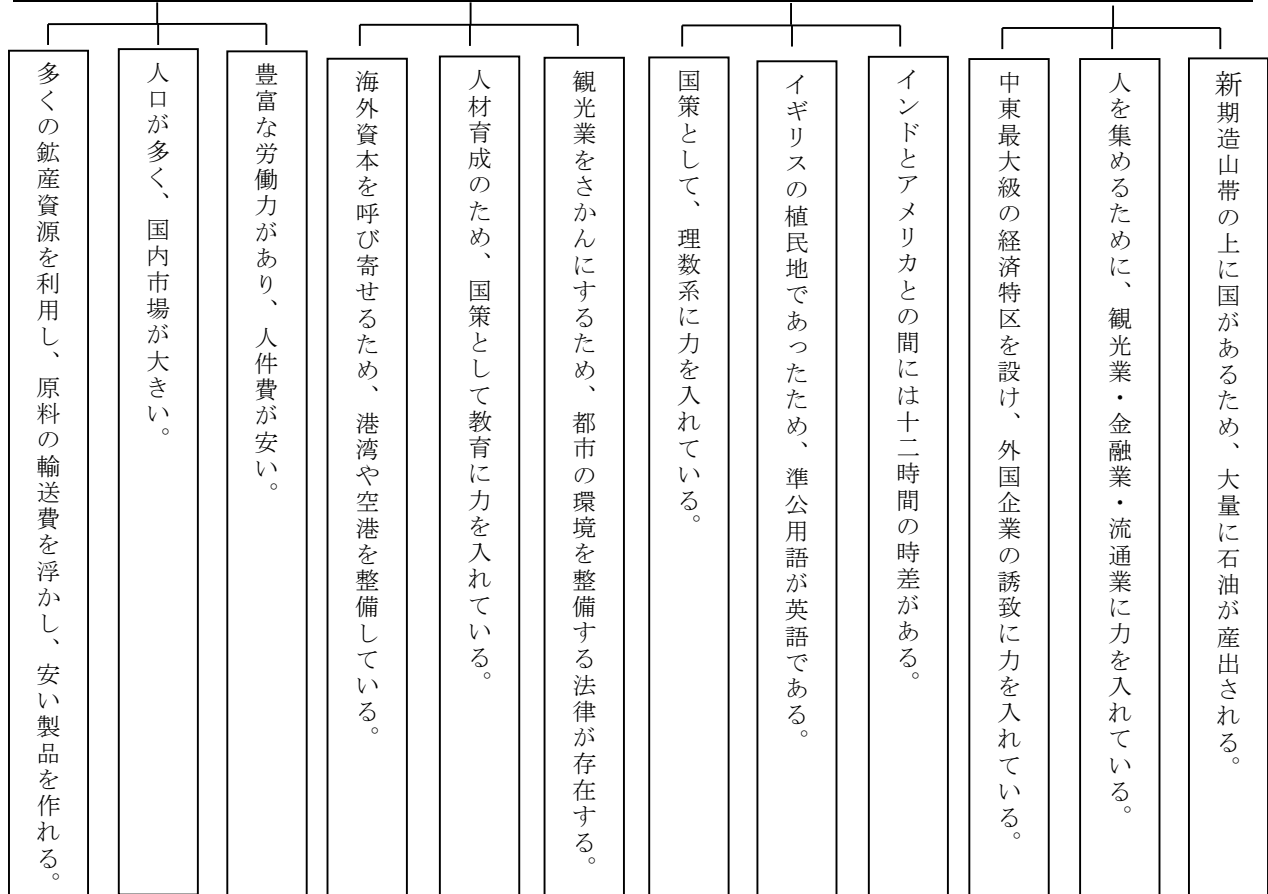
関連付けを行う際に、どの習得した知識や資料と関連付けているか、分かりやすくするために掲示物の色を変えて示した。この工夫により、視覚的に何と何を関連付けているかが分かりやすくなった。しかし、時間が足りず、グループごとの意見をクラスで交流する場面が少なかった。他のグループと意見を交流する場면을意図的、計画的に設けることで、各自の習得した知識が確かめられたり、新たな知識を付加したりするなど知識の関連付けが図られ、より説明力の高い知識が習得できるのではないかと考える。さらに、知識の再構成をおこなうためには授業構成の工夫が必要である。

以上のことが今後の課題である。

〔単元における知識の構造図〕

<p>【単元を貫く問い】</p> <p>「なぜ、アジア州では、近年、経済発展をしている国、地域が多いのだろう」</p>
<p>【単元で習得すべき知識】</p> <p>アジア州では、豊富な労働力、人件費の安さ、経済特区などを理由に外国企業が進出している。さらに、鉱産資源が豊富な国では原料の輸送費を浮かし、安価な工業製品を多く製造している。また、旧イギリス領では、英語を話す国民も多く、教育を充実させることなどのより、新しい産業分野での人材育成も図っている。以上のような理由などからアジア州では、近年経済発展している国や地域が多い。</p>

中国で習得する知識	シンガポールで習得する知識	インドで習得する知識	UAEで習得する知識
<p>鉱産資源が豊富であるため、それらを活かして安い工業製品を作ることができる。</p> <p>人口は約 13 億人であり、国内市場が大きい。また、平均年齢が若く、企業は若い労働者を安い給料で大量に雇い、他国よりも安い商品を作っている。</p> <p>経済特区を中心に海外の会社や工場が建てられている。</p>	<p>海外の資本を呼び寄せるために、港湾や空港を整備して市場経済を積極的に導入している。</p> <p>きれいな町を維持し、海外からの移住者を呼び寄せるためにポイ捨てなどに対する細かな罰則を定めている。</p> <p>人材育成のため教育に力を入れて。</p>	<p>国策として理数系に力を入れている。そのため数学に強い。イギリスの植民地であったため英語を話せる人が多い。アメリカとの時差を活かし、効率的にソフトウェアの開発やコールセンターの業務を行っている。</p> <p>また、IT 産業は新しくできた分野であるため、階層を気にせずいろいろな人たちが挑戦できる。</p>	<p>豊富に産出される石油を輸出することで、経済を成長させてきた。</p> <p>石油資源は将来的になくなってしまいうため、中東最大級の経済特区を設け、外国企業の誘致に力を入れている。</p> <p>また、観光業・金融業・流通業にも力を入れ、石油に頼らないで、経済を成長させている。</p>



①巨人の星 OP



②巨人の星 (養成ギブス) ③巨人の星 (ちゃぶ台)



(「巨人の星」より)

④巨人の星 (インド)



(「巨人の星 (インド版)」より)

⑤巨人の星 2 (インド)



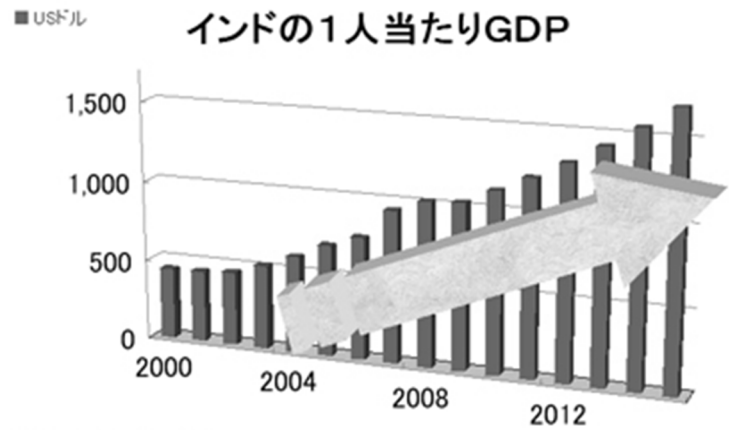
⑥インド街角 (昔)



⑦インド街角 (今)



⑧GDP



⑨インド、物価のグラフ

・水 1.0 リットルペットボトル

: Rs.15~20 (25.5 円~)

・インスタントヌードル 1 個

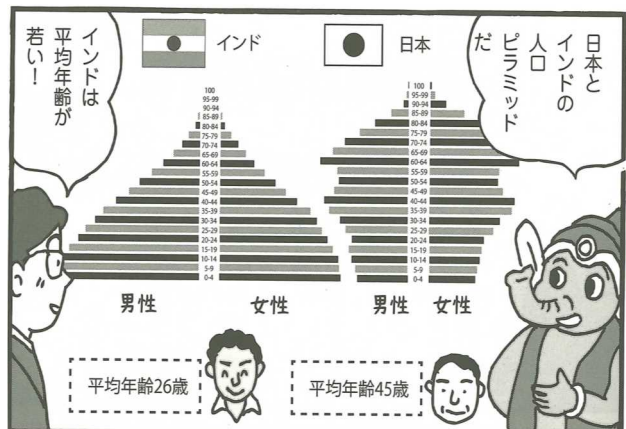
: Rs.15 (25.65 円)

・クッキー、ビスケット(6 枚いり)

: Rs.25-40 (42.75 円~)

(「週刊 ABROADEARS」より)

⑩人口ピラミッド(「インドの経済が3時間で分かる本」より)



たくさんお金をかせいで、たくさんモノを買おうぞ!!

⑪外国企業の進出（「IBC」より）



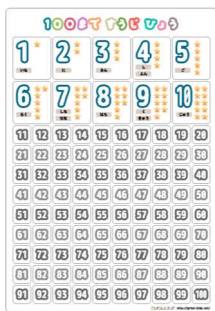
⑫製造業の平均年収

- 日本人平均年収・・・450 万円
 - インド人平均年収・・・20 万円
- （「日印教会」より）

⑬タタとラパンの価格比 20 万円、100 万円)



⑭日本とインドの算数ドリル（「インドの算数①」より）



Addition 1 - 10

Maths Lab Activity

In the classroom, to teach the concept of joining together, let children work in pairs with objects such as marbles, toy-robot figures, small stones etc. One child makes two groups of say 3 + marbles and 4 marbles (as called out by the teacher). The other child puts them together and counts how many there are. Let them then tell the class 3 and 4 make 7. Repeat this about 20-30 times with different numbers. Then go on to the exercises with pictures. Do not introduce the term add as yet.

Write the answer in the ...

3 and 2 make

5 and 1 make

6 and 3 make

⑮教育

インドは国をあげて、IT 教育をおこなう大学を増やすなどして理数系の教育に力を入れてきた。ちなみに、アジアで初のノーベル賞物理学受賞者はインド人である。また、IT 社会に向けてコンピューター教育を積極的に取り入れている。G8（日本の中1）のクラスではパソコンを使って、朝食のメニューを写真入りで紹介するホームページを作成する。

（日本経済新聞より作成）

⑯時差（「<http://s-yoshida0.my.coocan.jp/tiri/sub19.htm#top19>」より）



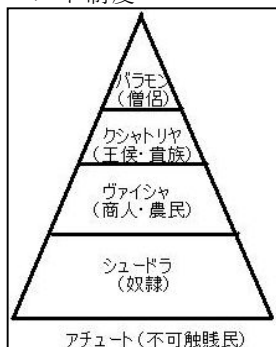
⑰IT 産業従事者

アメリカとインドは地球の真裏どうしで、およそ 12 時間の時差があります。この時差を利用してソフトを効率よく作ることができるのです。つまり、朝からアメリカで作ったソフトを夜になるとインドに送る。するとインドは朝を迎えており、夜まで作業を進める。そしてまたアメリカに送り…と作業は止まることなく進められ、完成までの時間は短縮されるのです。

⑱IT 産業とカースト制度

IT という職業は、今までの世襲職業（生まれたときから仕事が決まっている）の範囲外の新しい仕事である。なので、どのカーストかは問題にならず、本人の能力だけでチャレンジできる。「福井大学教育実践研究」より

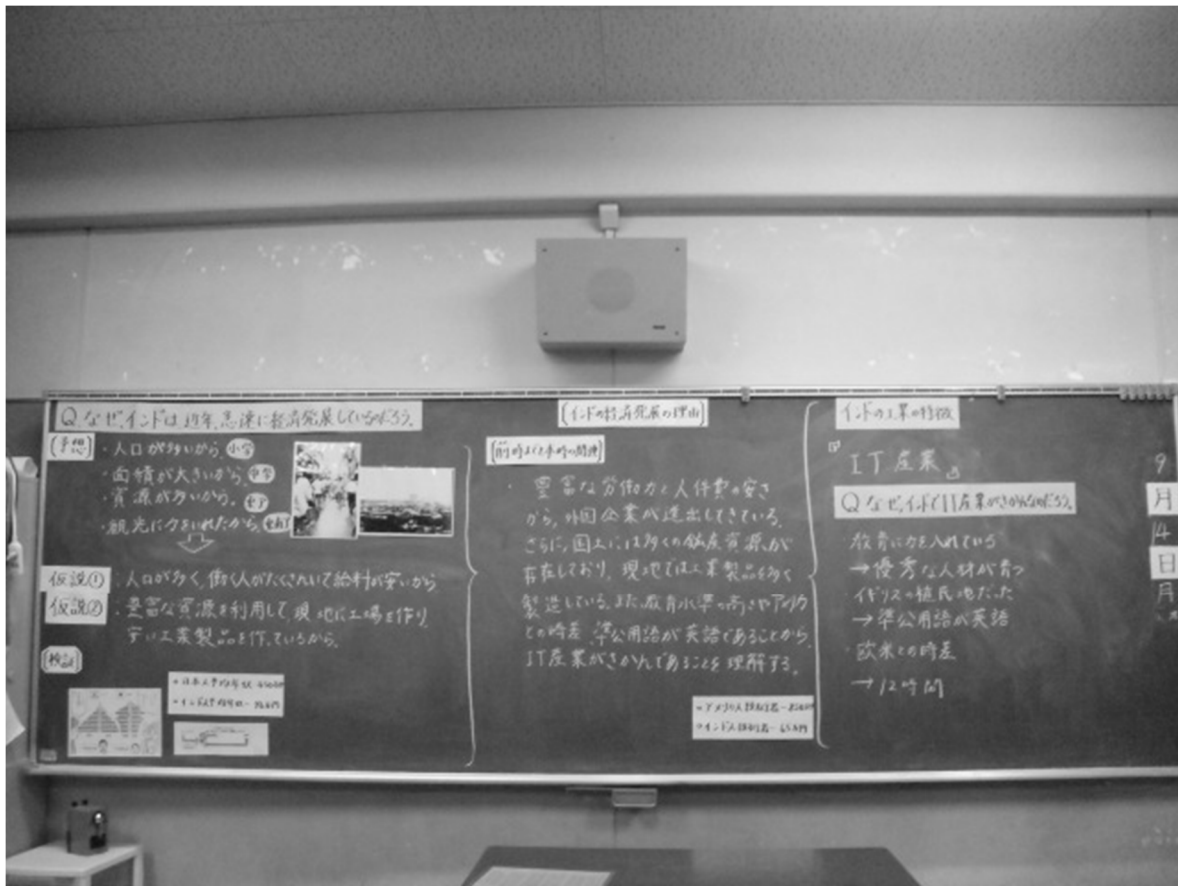
⑲カースト制度



⑳IT 技術者の平均年収（アメリカとインド）

- 日本人技術者・・・664 万円
 - インド人技術者・・・97 万円
- （「リクナビ」より）

[板書計画]



[実際の授業の板書]



Ⅲ. 習得した知識の活用場面を組み込んだ中学校社会科

歴史的分野授業モデル

習得した知識を活用し、室町時代を大観する授業 － 比較・関連の思考を通して －

1. 研究仮説

本研究では、次の仮説を検証することを目的とする。

前時までに習得した知識を活用して、時代を大観し表現する活動を行う。その際、資料を比較や関連付け、総合することを通して、時代の特色を説明する。このことにより思考力が育成される。

2. 学習内容

「室町時代」を大観する授業を開発する。これは、現行学習指導要領で新設された「歴史のとらえ方」の1つである「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。」学習に位置付く。

時代を大観する授業に関して「平成20年版 中学校学習指導要領解説社会編」（以下、「解説」）では、「多くの事象を個別に『覚える』だけの学習ではなく、各時代の特色などひとまとまりの学習内容の焦点や脈絡が『分かる』学習を実現していくことが重要なのである。」としている。そこで、「下剋上」をキーワードに室町時代を大観し、その特色を捉えさせる。第1時では、「産業の下剋上」、第2時では、「社会の下剋上」、第3時では、「政治の下剋上」、第4時では「文化の下剋上」をテーマに学習する。その後、第5時で、それぞれの時間で習得した知識やその過程で用いた資料を関連付けて「つまり室町時代は～という時代であった」と時代の特色を大きく捉えさせる学習内容である。

3. 研究テーマへのアプローチ

本学習は、「解説」によると「学習した内容の比較や関連付け、総合などを通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目しながら、『つまりこの時代は』『この時代を代表するものは』など各時代の特色を大きく捉え、言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習活動である。」と示されている。そこで、本単元では、特に「比較」及び「関連付け」を中心に「思考」を意図した授業づくりを目指す。

「産業の発達」、「社会の様子」、「政治の展開」、「文化の特色」などについての習得した知識を比較し、さらに比較した二つ以上の知識の関係性を見出すことを学習活動に意図的に組み込む。そして、まず個人で「つまり室町時代は～という時代であった」と時代の特色を大きく捉え、そう考える根拠を習得した知識を基に明らかにさせる。次に、そのことを班や全体で交流する活動を意図的に組み込む。これにより、次の2点をねらう。

- ①習得した知識を比較や関連付け、室町時代を貫く「下剋上」というキーワードを生徒たち自身が見つかることで、思考力を育成させる。
- ②生徒の意見交流を通して各自の知識を再構成し、より説明力の高い知識を習得させる。

社会科(歴史的分野)学習指導案

日 時 平成27(2015)年11月13日(金) 第2校時

学 級 2年5組 35名 (男子19名, 女子16名)

指導者 檀原市立檀原中学校 松林 和美

1. 単元名 習得した知識を活用し、室町時代を大観する授業

－比較・関連の思考を通して－

2. 単元設定の理由

(1) 教材観

現行学習指導要領の歴史的分野に「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。」とある。そのためには、各時代の特色関わる基本的な内容の定着を図り、課題追究的な学習を重視することが求められる。

本単元では、室町時代を取り上げる。その際、室町時代を、資料の読み取りや比較、関連付けを通して大観し、時代の特色を表現する学習を展開する。室町時代の特色を表すキーワードには、「民衆の成長」、「下剋上」等があり、室町時代の産業、社会、政治、文化に共通して見られるものである。例えば、下剋上に見られる特色を捉えさせる単元構成をするためには、室町時代を特徴付ける絵画や地図や写真などの図像資料、文献資料、統計資料を通して学習課題を追究し、知識を習得させることや、その知識を比較、関連付け、室町時代の特色を捉えさせることが必要となる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、社会科の学習に真面目に取り組む生徒が多い。しかし、課題追究などにおいて主体的に十分取り組めていない様子がある。また、社会科の教科書や資料集にある絵画や写真などの資料に関心をもつものの、社会事象については表面的にしか捉えることができていない。

そこで、学習課題を探究することにより、資料を深く読み取り、比較、関連付けて社会事象を捉えることができる能力を身に付けさせ、社会事象をより深く理解できる喜びを実感させる。

(3) 指導観

室町時代の特色を捉える際、「産業の発達」、「社会の様子」、「政治の展開」、「文化の特色」などについて習得した知識を、比較、関連付け、総合する。まず個人で、「室町時代は〇〇という時代であった」と室町時代の特色を大きく捉え、そのように考える根拠を、習得した知識をもとに明らかにさせる。そして、個人の考えを班や全体で交流する活動を意図的に組み込む。このことにより、以下の2点をねらう。

①習得した知識を比較や関連付け、室町時代を貫く「下剋上」というキーワードを生徒たち自身が見つかることで、思考力を育成させる。

②生徒の意見交流を通して各自の知識を再構成し、より説明力の高い知識を習得させる。

その際、米田豊氏の授業構成論に依拠する。

3. 単元の指導計画と評価規準(全5時)

(1) 単元の指導計画

- 第1時 産業の発展
- 第2時 立ち上がる民衆
- 第3時 室町幕府と将軍
- 第4時 室町時代の文化
- 第5時 室町時代の特色【本時】

(2) 単元目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
○室町時代の農業など諸産業諸産業の発展、都市や農村における自治的なしくみの成立、将軍の権力の弱体化、民衆の文化の高まりなどから、室町時代の特色を意欲的に捉えることができる。	○町時代の農業など諸産業の発展、都市や農村における自治的なしくみの成立、将軍の権力の弱体化、民衆の文化の高まり等の背景について考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的なしくみの成立、将軍の権力の弱体化、民衆の文化の高まり等に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択し、読み取ったりまとめたりすることができる。	○室町時代は、民衆の経済力の高まりを基盤とし、産業や社会、政治や文化において下剋上が特色として見られる時代であったことを理解し、その知識を身に付けることができる。

(3) 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
第一時			○産業や技術の進歩、新しい職業について資料から有用な情報を、読み取ったり、まとめたりしている。	○農業技術の進歩により、農業生産量が増加したこと、それにともない、手工業、商業が発展したことを理解し、その知識を身に付けている。
第二時			○農村における自治的なしぐみや、土一揆が起こった背景について、資料を読み取ったりまとめたりしている。	○民衆が、自分たちの生活や利益を守るために自治を行い団結を強めたことや上の身分の者に自分たちの要求を認めさせようとして一揆を起こしたことを理解し、その知識を身に付けている。
第三時		○鎌倉幕府と室町幕府のしぐみを比較し、室町時代において将軍の権力が弱かった理由を考察し、適切に表現している。		○足利義満の死後、将軍の力が弱まり、政治の実権が有力な守護大名に移っていったこと、その中で応仁の乱が起こったことを理解し、その知識を身に付けている。
第四時	○室町時代の文化の中で現代に結び付くものが見られることに関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	○祇園祭や能、狂言などの民衆の文化が広まった背景について考察しその過程や結果を適切に表現している。		○経済力を高めた民衆が結びつきを強めたため、祇園祭や能や狂言などの民衆の生活と結びついた文化が広まっていったことを理解し、その知識を身に付けている。
第五時【本時】		○学習した内容を比較し、関連付け、室町時代の特色を考察し、表現している。		○室町時代は、民衆の経済力の高まりを基盤とし産業、社会、政治、文化において下剋上が特色として見られる時代であったと理解し、その知識を身に付けている。

4. 学習指導過程

第1時 産業の発達

(1) 第1時の目標

- 産業や技術の進歩、新しい職業について、資料から有用な情報を読み取ったり、まとめたりすることができる。【資料活用の技能】
- 農業技術の進歩により、農業生産量が増加したこと、それに伴い、手工業、商業が発展したことを理解し、その知識を身に付けることができる。【社会的事象についての知識・理解】

(2) 第1時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料のような場所を何というのだろう。 ○なぜ、室町時代には市の開かれる回数が増えたのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 市 農産物や商品が、多く生産されるようになった。 市にもものが、運び易くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉時代は「三斎市」、室町時代は「六斎市」が開かれたことを補説する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市の絵「一遍上人絵伝」
<p>なぜ、室町時代の民衆は、経済力を高めることができたのだろうか。</p>					
展開	<ul style="list-style-type: none"> 農業生産量が増えた理由について考える。 手工業と商業がさかんになった理由について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○牛を使って何をしているところだろう。 ○牛を使って耕すことの利点は何だろう。 ○今までより広い土地で、一人で田植えをするのだろうか。 ○この絵の建物は何をするとところだろう。 ○なぜ、そのくみ取り権をめぐる付近の村同士があらそい、死人まで出る騒ぎになるのだろうか。 ○農業生産量の増加と関係の深い手工業者を選んで、その理由を説明しよう。 ○なぜ、手工業品や特産物が多く作られるようになったのだろうか。 ○これらの作物は、どのようにして市に集められたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 牛にすきを引かせ田を耕している。 人が耕すのと同じ時間で、広い土地を耕せること。 みんなで協力する。 便所 糞尿が肥料になるから。 糞尿が肥料として効果が高いから。 結桶師…結桶を糞尿入れなどに使う。 鍛冶屋…鉄を農具に使う。 農民が、お金を儲けたいと思うようになったから。 農業をせずに生活できたから。 人が運んだ。 馬が運んだ。 船で運んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料②の牛馬耕の部分だけ見せる。 資料②の残りの部分を見せる。 田楽を行っていることにも触れる。 4人ほどで組ませ、考えさせる。 資料集 p. 52を調べさせる。 塩、茶などの特産物も多く作られるようになったことを資料⑦から確認する。 草戸千軒町のような市場町が栄えたこと、貨幣経済の発達により金融業が活発になったことを補説する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②田植えをしている絵「月次風俗図屏風」 ③共同便所の絵「募婦絵」 ④施肥の絵「洛中洛外図屏風」 ⑤結桶師の絵「三十二番職人歌合」 ⑥鍛冶屋の絵「職人歌合絵巻」 ⑦中世の特産物と交通（地図） ⑧草戸千軒町の復元写真と発掘された銭の写真 ⑨土倉の絵「春日権現験記絵巻」

ま と め	・本時の問いに対する答えをまとめる。			・ワークシートにまとめるよう指示する。	
	牛馬耕や、肥料、鉄製農具の普及のため、農業生産量が増えた。余裕ができた農民が、貨幣収入を得るために、手工業をしたり、商品作物をつくったりするようになった。また、陸上では馬借が生まれ、海上交通も整備されたため、商品の流通が活発になった。以上のような理由で、民衆の経済力が高まっていった。				

第2時 立ち上がる民衆

(1) 第2時の目標

- 農村における自治的なしくみや、土一揆が起こった背景について、資料を読み取ったり、まとめたりすることができる。【資料活用の技能】
- 民衆が、自分たちの生活や利益を守るために自治を行い団結を強めたこと、上の身分の者に自分たちの要求を認めさせようとして一揆を起こしたことを理解し、その知識を身に付けることができる。【社会的事象についての知識・理解】

(2) 第2時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	・本時の問いをつかむ。	○民衆が経済力を高めたら、上の身分の人達は何を要求するだろう。 ○上の身分の人が無理矢理税を取ろうとすると民衆はどうするだろう	・年貢を増やす。 ・税を増やす。 ・抵抗する。 ・みんなで団結して抵抗する。	・人々の一致団結した行動を一揆ということを知らせる。	①一揆の発生地域(地図)
なぜ、室町時代には、各地で一揆が起こるようになったのだろう。					
展開	・民衆が団結するようになった理由を考える。	○「今堀郷の掟」の条文は、何のために作られたのだろう。		・班ごとにホワイトボードに書かせ、黒板に掲示する。	②「今堀郷の掟」の文章(教科書 p.79)
①「一 寄合があるとき、2度連絡しても参加しない者は、50文の罰金とする」 →村の自治に、村人が必ず関わるようにするため。 ②「一 森林の苗木を切り取った者は、500文の罰金とする」 →貧富の差をなくすために、森林を村人全員のものとしているため。					
	・土一揆が起こった理由を、正長の土一揆から考える。	○なぜ、今堀郷では、このような掟をついたのだろう。 ○碑文の意味は何だろう。 ○どのようにして、借金を帳消しにさせたのだろう。	・村の団結を強めるため。 ・正長元年以降、神戸の四か郷にはもう借金はないぞ。 ・酒屋・土倉・寺院などの高利貸しを破壊した。	・室町時代の農村では、惣という自治組織を作っていたことを知らせる。 ・碑文は借金帳消しを認めさせた宣言であったことを説明する。	③正長の土一揆碑文(写真) ④大乘院日記目録の一部

		<ul style="list-style-type: none"> ○「徳政」とはどういう意味だろう。 ○なぜ、土民は借金を帳消しにさせたかったのだろう。 ○日記の作者は、農民による一揆をどのようにとらえていたのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・借金の証文を破り捨てた。 ・借金を帳消しにすること。 ・借金が増え、生活が苦しくなっていたため。 ・「国が減びる原因となるもの」 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代の学習を想起させる。 ・一向一揆、国一揆についても補説する。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の問いに対する答えをまとめる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにまとめるよう指示する。 	
<p>民衆が、自分たちの生活や利益を守るために、自治を行い団結を強めてきた。そのような社会の中で、上の身分の者に自分たちの要求を認めさせようとしたために、各地で民衆による一揆が起こるようになった。</p>					

第3時 室町幕府と将軍

(1) 第3時の目標

- 鎌倉幕府と室町幕府のしくみを比較し、室町時代において将軍の権力が弱かった理由を考察し、適切に表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- 足利義満の死後、将軍の権力が弱まり、政治の実権が有力な守護大名に移っていったこと、その中で応仁の乱が起こったことを理解し、その知識を身に付けることができる。【社会的事象についての知識・理解】

(2) 第3時の学習指導過程

過程	学習活動	<input type="radio"/> おもな発問 <input type="checkbox"/> おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の問いをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この三人の室町幕府の将軍は、どの順番で将軍になったのだろう。 ○なぜ、段々と将軍の権力が弱まっていったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家来の力が強くなっていったため。 		<ul style="list-style-type: none"> ①義満肖像画 ②義教肖像画 ③義政肖像画
<p>なぜ、室町時代には、将軍の権力が弱まっていったのだろう。</p>					

<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 室町時代に、将軍の権力が弱まっていった理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉幕府と室町幕府のしくみを比較し、その違いを言おう。 ○義満の頃、なぜ、将軍の力は強かったのだろうか。 ○義教はなぜ、「くじびき将軍」と呼ばれたのだろうか。 ○義教は、どのようにして将軍の権力を守ろうとしたのだろうか。 ○義教が死んだとき、なぜ、「將軍犬死」と言われたのだろうか。 ○なぜ、義政のとき、応仁の乱が起こったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 室町幕府には管領がある。 守護、地頭の表し方が違う。 室町幕府には鎌倉府というのがある。 守護大名を倒した。 様々な地位を手に入れたため、権力があつた。 くじ引きで選ばれたため。 義満のまねをした。 殺されたため。 将軍の跡継ぎ争いが起こったため。 将軍の跡継ぎ争いに、守護大名の勢力争いが絡んだため。 	<ul style="list-style-type: none"> 三管領について、補説する。 守護大名とは何か、教科書から読み取らせる。 資料①から、義満の地位について、読み取らせる。 父が「守護大名が納得する方法で将軍を選ばなくてはならず、自分にはむりだ」といったことを補説する。 守護大名に殺されたことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ④室町幕府のしくみ図 ⑤鎌倉幕府のしくみ図 ①義満肖像画 ②義教肖像画 ③義政肖像画 ⑥応仁の乱の対立関係図（資料集 p.56） ⑦応仁の乱の絵 	
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いに対する答えをまとめる。 	<p>室町幕府は、守護大名が管領の職につき、将軍と守護大名との連合政権となっていたため将軍の権力が弱かった。足利義満の死後、義教が守護大名に暗殺されたり、義政の跡継ぎ争いに守護大名が実権をもったりした結果、将軍の権力が弱まり、政治の実権が有力な守護大名に移った。その中で応仁の乱が起こった。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめるよう指示する。

第4時 室町時代の文化

(1) 第4時の目標

- 室町時代の文化について、現代に結び付くものが見られることに関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 祇園祭や能、狂言などの民衆の文化が広まった背景について考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- 経済力を強めた民衆が結びつきを強めたため、祇園祭や、能、狂言などの民衆の生活と結びついた文化が広まったことを理解し、その知識を身に付けることができる。【社会的事象についての知識・理解】

(2) 第4時の学習指導過程

過程	学習活動	<input type="radio"/> おもな発問 <input type="checkbox"/> おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
----	------	---	------------	---------	----

導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この二つの写真は、何の写真だろう。 ○なぜ、このような民衆の文化が高まったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 京都の祇園祭 狂言 	<ul style="list-style-type: none"> どちらも民衆が中心となって町時代に行われていたことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①現在の祇園祭の写真 ②現在の狂言の写真
なぜ、室町時代には、民衆の文化が高まっていったのだろう。					
展開	<ul style="list-style-type: none"> 民衆が祇園祭を復活させることができた理由を考える。 能や狂言が、民衆に広まった理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の祇園祭の写真と室町時代の祇園祭の絵と比べよう。 ○祇園祭は、いつから行われているのだろう。 ○15世紀の中頃、祇園祭が行われなくなるのはなぜだろう。 ○応仁の乱後の1500年に誰が費用を出して祇園祭を復活させたのだろう。 ○なぜ、京都の商人はたくさん稼ぐことができたのだろうか。 ○京都の商人は、京都の街を栄えさせるために、どんなことをしたのだろう。 ○この絵は何をしているところを表しているのだろう。 ○見ている人達はどんな人達だろう。またどんな様子だろう。 ○能楽の合間に演じられる狂言は、どんな芸能だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 室町時代と同じ色合い 豪華 869年に疫病退散を願って、66本の鉾をたてて行ったのが始まりとされる。 応仁の乱のため、京都の町が焼けてしまったから。 京都の商人 商品などを買ってくれる人が多かったから。 商品などが沢山集まってきたから。 町を戦争から守るために堀や土塀を作った。 能楽 民衆 のぞいてまでみている。 面白い劇 	<ul style="list-style-type: none"> 平安時代から朝廷が行っていた官祭で、室町幕府は土倉・酒屋に費用を出させていたことを補説する。 特産物が近畿地方に多く、街道が京都に集まっていたことに気付かせる。 酒屋・土倉など裕福な商人が町衆となって自治を行い、町を守っていたことを知らせる。 能楽は田楽や猿楽から大成されたことを知らせる。 足利義満が保護したことを知らせる。 演目「止道方角」のあらすじを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③室町時代の祇園祭の絵（「洛中洛外図屏風」） ④資料集 p.55 ④ 今日に伝わる祇園祭 ⑤「応仁記」一部 ⑥中世の特産物と交通（地図） ⑦近畿地方の交通（地図） ⑧室町時代の京都（地図） ⑩能楽の舞台の絵（「洛中洛外図屏風」） ⑪現代の狂言の写真
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いに対する答えをまとめる 	経済力を高めた民衆が、結びつきを強めたため、祇園祭や、能や狂言などの民衆の生活と結びついた文化が広まっていった。			

第5時（本時）室町時代の特徴

（1）本時の目標

○学習した内容を比較、関連付け、室町時代の特徴を考察し、表現することができ

る。また、他の生徒の発表内容を受けて、自分の意見に加えたり、補足する具体的な意見を述べたりして、さらに知識を深めて表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

- 室町時代は、民衆の経済力の高まりを基盤とし、産業、社会、政治、文化において、下剋上が特色としてみられる時代であったことを理解し、その知識を身に付けることができる。

【社会的事象についての知識・理解】

(2) 本時の授業仮説

課題解決をする過程において、資料や知識を関連付けた意見交流を生徒が活発に行えば、生徒個人の習得している知識に新たな知識が加わり、より説明力の高い知識を習得させることができる。さらに、室町時代の特色を表すキーワードが下剋上であることを見つけることができる。

(3) 本時の学習指導過程

導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの復習 	<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ、応仁の乱後に途絶えていた祇園祭が復活したのだろう。 ○室町時代にお金をもうけるようになったのは、商人だけであったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都の商人が団結してお金を出したから。 ・農民も ・手工業者も 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に資料①～②を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①祇園祭の絵 「洛中洛外図屏風」 ②草戸千軒で発掘された銭の写真
<p>室町時代は、どのような時代だったのだろう。</p>					
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代の特色を産業、社会、政治、文化について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「室町時代は、産業、社会、政治、文化から見て、どのような時代であったのか。」を説明してみよう。また、その理由を資料から1つ選び説明してみよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・時代の特色を4人～3人の班でホワイトボードに書かせ、その理由を説明させる。 	<p>選択させる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ③田植えの絵 「月次風俗図屏風」 ④馬借の絵 「洛中洛外図屏風」 ⑤土倉の絵 「春日権現験記絵巻」 ⑥今堀郷の掟の文章 ⑦正長の土一揆碑文（写真） ⑧室町幕府のしくみ図 ⑨応仁の乱の絵 ⑩祇園祭の絵 「洛中洛外図屏風」 ⑪能楽の舞台の絵 「洛中洛外図屏風」
<p>【産業】室町時代は、産業から見ると、民衆の経済力が高まった時代といえる。なぜなら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ③牛馬耕や共同作業を行ったため、生産量が増えたからである。 ④馬借が生まれ、各地に商品を運ぶことができたため、商業がさかんになったからである。 ⑤商業がさかんになったため、民衆がお金を必要とするようになり、土倉と呼ばれた質屋が多く生まれたからである。 <p>【社会】室町時代は、社会から見ると、各地で一揆が起こった時代だといえる。なぜなら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑥農民が、自分の生活や利益を守るため、惣をつくり、団結を強めるようになったからである。 ⑦民衆が自分たちの生活を守るため、上の身分の人達に要求をするようになったからである。 <p>【政治】室町時代は、将軍の権力が弱まっていった時代といえる。なぜなら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧室町幕府は、有力な守護大名を管領に任じていたためである。 ⑨将軍の跡継ぎを義政が決めることができなかつたため、応仁の乱が起こったからである。 <p>【文化】室町時代は、民衆の文化が高まった時代といえる。なぜなら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑩経済力を高めた町衆により、祇園祭が復興されたからである。 ⑪民衆から生まれた能や狂言が広まり、貴族や武士にも受け入れられたからである。 <p style="text-align: right;">（※枠内の○の中に示された数字は資料番号）</p>					

	○項目の異なる2枚の資料を選び、関連付けて説明してみよう。		・班で考えさせる。
【産業】③－【社会】⑥ 農民が共同で農作業を行うようになったため、惣が発達した。			
【産業】④－【社会】⑦ 正長の土一揆は、近江の馬借の一揆がきっかけとなり起こった。			
【産業】③－【文化】⑩ 豊作を願う田楽から発展し、能楽が大成された。			
【社会】⑦－【政治】⑧ 正長の土一揆では、馬借や土民が、幕府に対して徳政令を要求した。			
【政治】⑧－【文化】⑩ 室町幕府の将軍である足利義満が、能楽を保護していた。			
【政治】⑨－【文化】⑩ 応仁の乱後、祇園祭が復活された。			
	○項目の異なる3枚の資料を選び、関連付けて説明してみよう。		。
【産業】③－【政治】⑧－【文化】⑩ 室町幕府の将軍足利義満が保護した能楽は、農民が行った田楽から発展した。			
【産業】⑤－【政治】⑨－【文化】⑩ 応仁の乱後、途絶えていた祇園祭を、土倉などの商人により結成された町衆が復興させた。			
	○産業、社会、政治、文化を関連付けることでさらに見えてきた、室町時代の特色は何だろう。	・民衆が団結して力をもつようになった。 ・下の身分の人が、上の身分の人に強く要求するようになった。 ・民衆の文化が、上の身分の人に影響を与えるようになった。 ・下剋上	・当時の人物も、一揆をさして、「また下極（剋）上の至りなり。」といったことを補説する。
	○このような特色を何というだろう。		
	○なぜ、このような特色が見られるようになったのだろう。	・民衆の経済力が高まったから。	
			・「大乘院寺社雑事記」一部

ま と め	<p>室町時代には、農業・手工業・商業が発達したことなどにより、民衆が経済力を高めていった。そして、自分達の生活や利益を守るため団結を強め、上の身分の者に要求を認めさせるため一揆を起こした。このような民衆の力の高まりは、祇園祭、能、狂言などの民衆の文化にも影響を及ぼした。政治では、室町幕府が守護大名との連合政権のため、将軍の権力が弱く、守護大名に政治の実権が移っていった。以上のようなことから、室町時代は、民衆の経済力の高まりを基盤とし、産業、社会、政治、文化において、下剋上が特色として見られた時代だということができる。</p>
-------------	--

【参考文献】

- ・ 米田 豊・岩田一彦 編著『「言語力」をつける社会科授業モデル』明治図書 2009年
- ・ 米田 豊 「文化の下剋上－室町時代の生活と文化を民俗学の視点から－」
全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第42集 1995年
- ・ 原田智仁 「歴史を大観する学習の単元構成論－日本と英国の事例分析を手がかりにして－」
全国社会科教育学会『社会科研究』第78号 2013年
- ・ 石川照子 「歴史を大観する学習の単元構成－中世の枡を手がかりに－」
第25回社会系教育研究会研究発表大会 2014年
- ・ 黒田日出男『増補 姿としぐさの中世史』平凡社 2002年
- ・ 原田信男『中世の村のかたちと暮らし』角川選書 2008年
- ・ 笹本正治『異郷を結ぶ商人と職人』中央公論新社 2002年
- ・ 横井 清 『下剋上の文化』東京大学出版会 1980年
- ・ 家永三郎『日本文化史』岩波新書 1982年
- ・ 島田崇志『写真で見る祇園祭のすべて』光村推古書院 2006年
- ・ 『朝日百科 日本の歴史5 中世Ⅱ』朝日新聞社 2005年
- ・ 佐伯真人・山口 正 編著『中学校社会科 定番教材の活用術 歴史』東京法令出版 2010年
- ・ 加藤公明『わくわく論争！ 考える日本史授業』地歴社 1991年

〔単元における知識の構造図〕

<p>【単元を貫く問い】</p> <p>「室町時代はどのような特色をもつ時代だったのだろう」</p>
<p>【単元で習得すべき知識】</p> <p>室町時代には、農業・手工業・商業が発達したことなどにより、民衆が経済力を高めていった。そして、自分達の生活や利益を守るため団結を強め、上の身分の者に要求を認めさせるため一揆を起こした。このような民衆の力の高まりは、祇園祭、能、狂言などの民衆の文化にも影響を及ぼした。政治では、室町幕府が守護大名との連合政権のため、将軍の権力が弱く、守護大名に政治の実権が移っていった。以上のようなことから、室町時代は、民衆の経済力の高まりを基盤とし、産業、社会、政治、文化において、下剋上が特色として見られた時代だといえることができる。</p>

産業の内容で習得する知識	社会の内容で習得する知識	政治の内容で習得する知識	文化の内容で習得する知識
<p>牛馬耕や、肥料、鉄製農具の普及のため、農業生産量が増えた。余裕ができた農民が、貨幣収入を得るために、手工業をしたり、商品作物をつくったりするようになった。また、陸上では馬借が生まれ、海上交通も整備されたため、商品の流通が活発になった。以上のような理由で、民衆の経済力が高まっていった。</p>	<p>民衆が、自分たちの生活や利益を守るために、自治を行い団結を強めてきた。そのような社会の中で、上の身分の者に自分たちの要求を認めさせようとしたために、各地で民衆による一揆が起こるようになった。</p>	<p>室町幕府は、守護大名が管領の職につき、将軍と守護大名との連合政権となっていたため将軍の権力が弱かった。足利義満の死後、義教が守護大名に暗殺されたり、義政の跡継ぎ争いに守護大名が実権をもったりした結果、将軍の権力が弱まり、政治の実権が有力な守護大名に移った。その中で応仁の乱が起こった。</p>	<p>経済力を高めた民衆が、結びつきを強めたため、祇園祭や、能や狂言などの民衆の生活と結びついた文化が広まっていった。</p>



【本時 使用資料】

①・⑩祇園祭の絵



(「洛中洛外図屏風」)

②草戸千軒で発掘された銭の写真

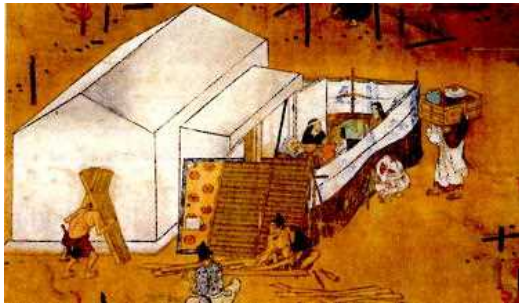


③田植えの絵



(「月次風俗図屏風」)

④土倉の絵



(「春日権現験記絵巻」)

⑤馬借の絵



(「石山寺縁起絵巻」)

⑥今堀郷の掟の文章

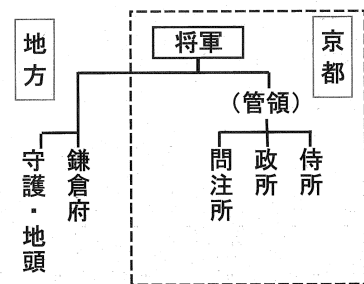
今堀郷のおきて
 一 寄合があるとき、2度連絡しても参加しない者は、50文の罰金とする。
 一 森林の苗木を切り取った者は、500文の罰金とする。

(「今堀日吉神社文書」より一部要約)

⑦正長の土一揆碑文(写真)



⑧室町幕府のしくみ図



⑨応仁の乱の絵



(「真如堂縁起絵巻」)

⑩能楽の舞台の絵



(「洛中洛外図屏風」)

【本時 板書案】



IV. 習得した知識の活用場面を組み込んだ中学校社会科

公民的分野授業モデル

効率と公正の視点を中心とした現代社会の見方や考え方の授業

－ 社会問題を通して見る効率と公正 －

1. 研究仮説

本研究では、次の仮説を検証することを目的とする。

身近な事例をとおして学習すれば、子どもは合意の妥当性を判断する基準となる概念的な枠組みを習得できる。その枠組みを用いて実際におこっている社会問題を分析すれば、子どもは根拠を明らかにして意志決定することができる。

2. 学習内容について

「現代社会をとらえる見方や考え方」の「対立と合意」「効率と公正」についての単元で、実際の社会問題の意志決定を考えることを中心とした授業を開発する。第1時では「対立と合意」「効率と公正」とは何かについて、どのようなことかの知識を身近な事例を通して学習する。特に「効率と公正」が合意の妥当性を判断する基準であることの理解に重心をおく。

第2時では、社会問題の例として、少子高齢化にともなう年金問題とその解決の手立ての1つと位置づけられている消費税をとりあげる。消費税が導入されたり税率が引き上げられたりした背景には年金問題があり、両者は原因と結果の関係にあることをおさえる。その上で、解決の手立てとしての消費税には効率的である一方、公正さの面では課題があることを理解させる。その際、あくまでも効率と公正を考える事例としてとりあつかい、年金と消費税について学ぶ授業にならないように留意する。第3時では、「年金制度を維持するために消費税率を上げるべきなのだろうか」という問いを示し、税率を上げる場合とそのままにしておく場合のメリットとデメリットを「効率と公正」の視点から生徒に分析させる。その上で、問いに対する自分の考えを、効率と公正の視点から根拠を明確にして表現させる。

3. 研究テーマへのアプローチ

この単元では、「対立と合意」「効率と公正」について概念的な枠組みの習得を目指す第1時では身近な例と関連付けや比較をすることで探究Ⅰを中心とした授業をおこなう。第2時では年金問題と消費税が「効率と公正」の視点でみたときにどのような関係にあるかを関連付けさせることで第3時の探究Ⅱにむけての分析のきっかけをつくる。さらに第3時でその知識をメリットとデメリットで分析することで「当てはめの思考」による未来予測の場面をつくり、どちらがよいかを判断することで「比較の思考」を働かせる。最終的にそれらの知識から意志決定を行うことで根拠を明らかにして意志決定ができる。

社会科(公民的分野)学習指導案

日 時 平成 27(2015)年 9月 1 1日(金) 第 5 校時

学 級 3 年 1 組 3 4 名(男子 1 6 名, 女子 1 8 名)

指導者 広陵町立真美ヶ丘中学校 江上 寿哉

1. 単元名 効率と公正の視点を中心とした現代社会の見方や考え方の授業

－ 社会問題を通して見る効率と公正 －

2. 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養うことをねらいとして平成 20 年版学習指導要領から新たに追加された内容である。この現代社会をとらえる見方や考え方が「対立と合意」「効率と公正」の考え方である。

「対立」とは、社会集団に所属する人々の多様な考え方や価値観、利害の違いがある中で、さまざまな問題や紛争が生じてしまう場合のことである。このような場合に、多様な考え方を持つ個人が社会集団の中で共に成り立ちうるように、また互いの利益が得られるように、何らかの決定を行うことが「合意」である。さらに合意の妥当性を判断するにあたって、「効率と公正」の考え方が必要になってくる。

「効率」とは、社会全体で「無駄を省く」という考え方である。「公正」には様々な意味合いがあり、「みんなが参加して決めているか、誰か参加できていない人はいないか」というような手続きの公正や「不当に不利益を被っている人をなくす」「みんなが同じようにする」といった機会の公正や結果の公正という考え方がある。

この概念的な枠組みを習得するために、学級で実際に起こった事例やゴミ置き場の決定の事例を扱い、合意に至るための「効率と公正」とはどのようなものかについてしっかり考え習得できるような場面を設定した。そして習得した知識を活用するための場面として、「消費税」を取り上げた。消費税における「効率と公正」の視点は、「効率」では「国民全体から確実に集めることができる」という点にあり、「公正」では「国民全体が負担する」という手続きの公正がある一方で、「収入が少ない人は負担が大きくなる」という結果の公正の点からは課題がある。このような消費税を年金問題の解決の手立てとして扱い、「効率と公正」の考え方に基づいて消費税率を上げるべきかどうかを考えさせた。その際には税率を上げること、上げないことそれぞれのメリットとデメリットを整理し比較する場面を設定し、今まで学習した知識を統合して意志決定をさせる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、静かに教師の話聞き板書を丁寧にノートに写すなど真面目に授業に取り組むことはできるが、積極的に自分の意見を発表したり、考えたりすることが苦手である。

社会科の授業において、ノートに自分の意見を書かせる機会を作っていることもあり、少しずつではあるが自分の考えを整理して書けるようになってきている生徒も増えてきている。しかし自分の意見を発表するとなると、積極的に発言できる生徒は少ない。本単元を通して、自分の考えを整理し、根拠を明らかにして意見を発表できるような力を身に付けさせたい。

(3) 指導観

本単元では、「対立と合意」「効率と公正」の考え方を生徒に習得させるだけでなく、実際の社会事象を取り上げて「効率と公正」の考え方をもとに合意に至るための場面を設定し、自分の考えを整理させ発表させる。

第1時では、実際に学級で起こった事例やゴミ置き場の決定の事例を扱い、「対立と合意」「効率と公正」の考え方を生徒に習得させる。

第2時では、「消費税」という実際の社会的事象を扱って、なぜ消費税が導入されたのかを年金問題と関連付けて理解させるとともに、実際の社会で「効率と公正」の考え方がどのように使われているのかを理解させる。

第3時では、「年金問題を解決する手立てとして消費税率を上げるべきだろうか」という問いを設定した。その上で、消費税率を上げること、上げないことによるメリット、デメリットを「効率と公正」の視点から生徒に考えさせる。これは「当てはめの思考による未来予測」を働かせ生徒に考えさせている。

消費税率を上げること、上げないことのメリット、デメリットを「効率と公正」の視点から考えた上で、消費税率を上げるのか、上げないのかという対立について、自分の意見を考えさせ発表させる。これは「比較の思考」を働かせて生徒に考えさせている。自分の意見を考えさせる上で、「効率と公正」の視点の中にある対立にも注目させて考えさせたい。

3. 単元の指導計画と評価規準(全3時)

(1) 単元の指導計画

- 第1時 「対立と合意」「効率と公正」
 第2時 「消費税で見る、効率と公正」
 第3時 「社会的事象で学ぶ効率と公正」～消費税を例に～【本時】

(2) 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
○さまざまな社会集団における物事の決定の仕方や物事の決定に必要な「効率と公正」の考え方の意味を意欲的に追究する。	○社会集団の中で問題を解決するために、どのような決定が望ましいのか、現代社会をとらえる見方である、「対立と合意」「効率と公正」の視点から具体的な社会事象を多面的、多角的に考察し、その結果を適切に表現する。	○実際の社会的事象やゴミ置き場の決定の事例から現代社会をとらえる「対立と合意」「効率と公正」などを理解するために役立つ情報を適切に読み取る。	○社会集団の中で「対立」が生じた場合、多様な考えを持つ個人が共に成り立ち、互いに利益が得られるように何らかの決定を行い「合意」に至ることを理解し「合意」が妥当なものになるように「効率と公正」の視点から考える必要があることを理解する。

(3) 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
第一時			○ゴミ置き場の事例から「効率と公正」の視点を読み取ることができる。	○「対立と合意」、「効率と公正」の考え方を正しく理解している。
第二時		○消費税の特徴を「効率と公正」の視点から考えている。	○資料から少子高齢化の進行にともなう年金制度の課題や消費税との関係を読み取ることができる。	○年金制度を維持する手立ての1つとして消費税率を上げることが検討されていることを理解する。 ○消費税は、税を徴収する方法として効率的である一方で、公正の視点からは課題があることを理解する。
第三時【本時】	○消費税率を上げるのか上げないのかグループで意欲的に意見を交換することができる。	○年金制度を維持する手立てとして消費税率を上げることの妥当性を「効率と公正」の視点を用いて考えるとともに、判断した根拠を、学習したことを用いて表現している。		

4. 学習指導過程

第1時 対立と合意、効率と公正

(1) 第1時の目標

○身近な事例を通して、効率と公正の考え方を正しく読み取ることができる。

【資料活用の技能】

○身近な事例を通して対立と合意、効率と公正の考え方を理解する。

【社会的事象についての知識・理解】

(2) 第1時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> 社会集団で生活する中で対立が生じ、それを解消するために合意に至ることを考える。 合意する方法を考え、合意に至るまでに効率と公正という考え方が必要であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この学級でも対立が生じ、合意に至っている。どのような場面でそのようなことがあったでしょうか。 ○学級であった対立を合意するためにどのような方法を使いましたか。 ○学級旗は決定後に修正をしたのは覚えていますか。 ○決定後すぐに修正が起こらないようにするには、何が必要でしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会選び ・修学旅行の行き先 ・学級旗選び ・多数決 ・くじ引き ・じゃんけん ・投票 ・覚えている ・話し合い ・みんなが納得すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際クラスで起こった事例(学級旗選び)を利用して、対立と合意が普段の生活の中にある事を気付かせる。 ・合意するための方法として多数決などの方法があることを知らせる。 ・学級旗を投票で決定したが、不備があり決定後に修正したことを思い出させる。 ・みんなが納得して合意するために効率と公正の視点が必要なことを知らせる。 	△学級旗
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・効率と公正の考え方をゴミ置き場の決定の事例を使って考える。 ・身近な税の効率と公正について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴミ置き場を決定するためにどのような方法が使われていますか。 ○この事例を効率の考え方から検討しよう。 ○この事例を公正の考え方から検討しよう。 ○消費税は知っていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数決 ・話し合い ・大通りに面していて、ゴミ収集車が停めやすいこともあり効率的である。 ・決定時Cさんが欠席していたことは公正に反している。 ・知っている。 ・知っているけれど詳しくは知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合うための方法について読み取らせる。 ・社会的に無駄が無く効率が良いことを補説する。 ・結果の公正、手続きの公正の視点から問題があることに気付かせる。 ・次時につながるように、消費税について触れておく。 	△ワークシート (ゴミ置き場の決定)
まとめ	<p>世の中には様々な対立があり、それを合意にもっていく必要がある。合意するためには、多数決などの方法があるが、社会全体として無駄を省く効率やみんなが参加して決められている手続きの公正、立場が変わっても受け入れられる結果の公正の視点を忘れることのないようにしなければならない。</p>				

第2時 消費税で見る、効率と公正

(1) 第2時の目標

○効率と公正の視点から、消費税の特徴を考えている。 【社会的な思考・判断・表現】

○資料から年金制度の課題や消費税との関係を読み取ることができる 【資料活用の技能】

○消費税は税を徴収する方法として効率的である一方、公正の視点からは課題があることを理解する。 【社会的事象についての知識・理解】

(2) 第2時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	・効率と公正の考え方について振り返る。	○効率にはどのようなものがありますか。 ○公正とはどのようなものですか。	・社会的に無駄がないこと。 ・手続きの公正 ・結果の公正	・効率と公正の視点について、前時の学習を基にして想起させる。	△ワークシート(ゴミ置き場の決定)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 効率と公正の視点から見たとき、消費税にはどのような特徴があるのだろうか。 </div>					
展開	・消費税ができた理由について考える。 ・年金問題を解決するための消費税率について考える。	○なぜ消費税が導入されたのでしょうか。 ○効率と公正の視点から見たとき、消費税にはどのような特徴があるのでしょうか。 ○年金問題を解決するために消費税率は上げるべきでしょうか。	・わからない。 ・税が足りない。 ・効率は国民全体から確実に税を集めることができる。 ・公正は国民全体が負担をするという手続きの公正、収入が少ないと負担が大きいという結果の公正が上げられる。 ・上げるべき。 ・上げない。	・消費税が導入された理由を年金と関連させて説明するように促す。 ・効率の視点から考えると、消費税は「国民全体から確実に税を集める事ができる」という見方があることを知らせる。 ・公正の視点から考えると「国民全体が負担する」という手続きの公正の見方ができることを知らせる。 ・「収入が少ないと負担が大きくなる」という結果の公正の見方もできることを触れる。 ・次の時間に税率を上げること、上げないことのメリット、デメリットを考えていくことを伝える。	△年齢別人口の推移と将来設計 △社会保険料収入 △国民年金納付率と主なできごと △年金の仕組み △年金の負担 △ワークシート(消費税について考えよう)

まとめ	<p>消費税を効率の視点から見ると、「国民全体から確実に税を集めることができる」という特徴があり、少子高齢化による年金問題を解決する手立ての一つとして位置付けられる。また消費税を公正の視点から見ると、「国民全体が負担する」という手続きの公正さがある一方で、「収入少ないと負担が大きくなる」という結果についての公正さに</p> <p style="text-align: center;">詳細は別紙を参照</p>
-----	--

第3時 社会的事象で学ぶ効率と公正 ～消費税を例に～【本時】

(1) 本時の目標

○消費税率を上げるのか、上げないのか、グループで意欲的に話し合うことができる。

【社会的事象への関心・意欲・

態度】

○年金問題を解決するための手立てとして消費税率を上げることの妥当性を効率と公正の視点を用いて考え、自分の判断した根拠を表現している。【社会的な思考・判断・表現】

(2) 本時の授業仮説

効率と公正の視点から消費税率を上げることと、上げないことのメリットを考え比較することで、生徒は根拠を明らかにして意志決定ができる。

(3) 本時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される 生徒の反応	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> 年金問題を解決するために消費税率を上げること、上げないことによるメリット、デメリットを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年金問題を解決するために消費税率を上げることのメリットやデメリットは何ですか。 ○年金問題を解決するために消費税率を上げないことによるメリット、デメリットは何ですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ーメリットー ・年金制度が維持できる。 ・国が年金を集めてくれるので将来や老後のこと以外に多くの労力を使うことができる。 ーデメリットー ・収入が少ない人にとっては負担が今までよりも重くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班での活発な意見交換を促す。 ・国が年金を集めることを伝える。 	<p>△ワークシート (消費税率を上げる？上げない？)</p>
		年金問題を解決する手立てとして消費税率を上げるべきなのだろうか。			
展	<ul style="list-style-type: none"> ・年金問題を解決するために消費税率を上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ○消費税率を上げることによるメリットとデメリットを 	<ul style="list-style-type: none"> 「効率の視点」 ・国が年金を集めてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班でメリット、デメリットは考えるが 	

開	<p>げること、上げないことによるメリット、デメリットについて効率と公正の視点で考える。</p> <p>・年金問題を解決する手立てとして消費税率を上げるか上げないのかを考え、考えた内容を発表する。</p>	<p>効率と公正の考え方から検討してみよう。</p> <p>○消費税率を上げないことによるメリットとデメリットを効率と公正の考え方から検討してみよう。</p> <p>○年金問題を解決する手立てとして消費税率を上げるべきでしょうか。</p>	<p>・将来や老後のことについて以外に多くの労力を使うことができる。 「公正の視点」</p> <p>・収入が少ない人にとっては今以上に負担が重くなる。</p> <p>「 「効率の視点」</p> <p>・年金がもらえないかもしれない。 ・若い内から自分で将来の対策を立てなければならぬ。 「公正の視点」</p> <p>・収入が少ない人にとっては負担が今と変わらない。</p>	<p>トの効率と公正の視点の確認は一斉授業の形式を用いる。</p> <p>・効率の部分については、補説する。 ・対立軸が公正の視点と効率の視点にあることを、明確にさせる。</p> <p>・上げるべきか、上げないべきかを、個人で考えさせ、意見をまとめさせる。 ・自分の意見、その意見の根拠、その根拠が効率と公正の視点のどの部分なのかを明らかにして答えさせる。 ・効率と公正の視点をきちんと考え、まとめることができているのかを確認する。</p>	
まとめ	<p>・年金問題を解決するための手立てとして、消費税率は上げるべきである。なぜなら、収入が少ない人にとっては負担が今以上に大きくなり公正の考え方からは問題点があるが、国が年金を集めてくれるので効率的であり、若い内から将来や老後のことに手間や費用をかけなくていいので、将来や老後のこと以外に多くのエネルギーを使うことができるから。</p> <p>・年金問題を解決するための手立てとして、消費税率はあげるべきではない。なぜなら、年金がもらえなくなるかもしれない、若い内から将来について考え対策をする必要があり、余計な手間や費用がかかり効率的ではないかもしれないが、収入が少ない人にとっての負担が今よりも大きくなることはないので、公正の考え方からすると問題点がないから。</p>				
	<p>・本時の学習内容を踏まえ、自分の考えを再度整理する。</p>			<p>・身近な事例や社会的な論争問題を考える場合、対立と合意、効率と公正の視点が必要であることを伝える。</p>	

【参考文献】

- ・岩田一彦 『社会科授業研究の理論』 明治図書 1994年
- ・岩田一彦・米田豊 編著『「言語力」をつける社会科授業モデル中学校編』 明治図書 2009
- ・三木義一『税ってなに?』 シリーズ1 とられる税から私たちの税へ
シリーズ2 税の集め方、使い方のしくみ
シリーズ3 税の種類と使い道
シリーズ4 消費税ってどんな税? かもがわ出版 2014
- ・池上彰『14歳からのお金の話』 マガジンハウス 2008
- ・もっと知りたい税のこと 財務省

https://www.mof.go.jp/tax_policy/publication/brochure/zeisei2507/index.htm

- ・税の学習コーナー 国税庁 <https://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/gakushu/index.htm>

- ・いっしょに検証! 公的年金～財政検証結果から読み解く年金の将来～

<http://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/index.html>

- ・社会科学学習指導案(公民的分野) 澤田健二
- ・池上彰『この社会で戦う君に「知の世界地図」をあげよう』池上彰教授の東工大講義世界編 文藝春秋 2015

5. 成果と課題

(1) 成果

本単元では、「合意」の際に必要な視点として「効率と公正」について考えさせる。その際身近な事例とともに実際の社会的事象である消費税を扱い、年金問題の解決の手立てとして税率を上げるべきなのかという問いを立てて、「効率と公正」の視点から自分の考え方や根拠を明確にして表現させる学習を展開した。得られた成果は以下の2点がある。

- ① ゴミ置き場の決定や消費税など身近な事例や実際の社会的事象を取り上げて、効率と公正の視点を習得させることができた。
- ② 「年金問題を解決するために消費税率を上げるべきなのだろうか」という問いについて効率と公正の視点を踏まえて根拠を明確にして理由を述べることができた。

①について：効率と公正という生徒が習得しにくい概念的な枠組みを、生徒にとって

より身近な事例を扱って学習することは効果的だった。

②について：第1、2時で習得した知識を使って、自分の意見を整理し発表すること

ができた。

(2) 課題

今後の課題としては、以下の3点がある。

- ① 年金問題を解決するために、消費税率を上げるのか、上げないのかに対するメリット・デメリットを考えさせる場面で誰にとってのメリット・デメリットなのかが曖昧であったこと。
- ② 最終的な意志決定を行う場面で、留保条件が生徒から出にくかったこと。
- ③ 公正の中の対立が見えてこなかったこと。

①について：年金問題を解決するために、消費税率を上げること、上げないことのメリッ

ト・デメリットは個人にとってなのか、国にとってなのかが曖昧にな

ってし

まった。個人のこと、国のこととはっきり分けて考えさせておけば、
最終的

な意志決定を行う際に、自分の将来のこととしてより深く考えること
ができ

たのではないかと考える。

②について：消費税率を上げること、上げないことのメリット・デメリットが対極
になっ

ていたために、効率と公正の視点で考えたときに、自分の老後を考え
ると上

げなければならないと感じてしまい、自分の立場を考えるときに軽減
税率な

どの留保条件などが出にくかったのではないかと考える。

③について：第2時で、消費税についての手続きの公正と結果の公正に対立がある
ことを

確認していたが、第3時で消費税率を上げること、上げないことのメ
リット

・デメリットを効率と公正で考えたときに、公正を手続きの公正と結
果の公

正で考えなかったため、公正の中にある対立を意識しながら消費税率
につい

て考えられなかったと思われる。

【単元を通して子どもに身につけさせたい概念的な枠組み】

対立とは、社会集団に所属する人々の中で様々な問題が生じてしまう場合のことである。
 合意とは、問題が生じた場合、社会集団が共に成り立ちうるように、利害が得られるように何らかの決定を行うことである。
 効率とは、社会全体で無駄を省くということである。
 公正にはさまざまな意味合いがあり、手続きの公正、結果の公正が上げられる。

社会的事象で学ぶ効率と公正	消費税の効率と公正	対立と合意」「効率と公正
<p>消費税率は上げるべきである。なぜなら、低所得者にとっては負担が今以上に大きくなり公正の視点からは問題点があるが、国が年金を集めてくれるので効率的であるから。 消費税率はあげるべきではない。なぜなら、若い内から将来について考え対策をする必要があり効率的ではないが、低所得者にとっての負担が今よりも大きくならないので、公正の視点から問題点がないから。</p>	<p>消費税を効率の視点から見ると、「国民全体から確実に税を集めることができる」という特徴があり、少子高齢化による年金問題を解決する手立ての一つとして位置づけられている。また消費税を公正の視点から見ると、「国民全体が負担する」という手続きの公正さがある一方で、「収入少ないと負担が大きくなる」という結果についての公正さには課題がある。</p>	<p>世の中にはさまざまな対立があり、それを合意にもっていく必要がある。合意するためには、多数決などさまざまな方法があるが、社会全体として無駄を省く効率やみんなが参加して決められている手続きの公正、立場が変わっても受け入れられる結果の公正の視点を忘れることのないようにしなければならない。</p>

年金制度が維持できる（メリット）	国が年金を集めてくれる（メリット）	低所得者にとっては負担が今よりも重くなる（デメリット）	国が年金を集めてくれるので、将来や老後のこと以外に多くの労力を使える（効率）	低所得者にとって負担が大きくなる（公正）	低所得者にとって負担は今までと変わらない（メリット）	年金がもらえない可能性があるので、自分で対策を立てる必要がある（デメリット）	年金がもらえないかもしれないので、若い内から対策を立てる必要がある（効率）	低所得者にとって負担は今までと変わらない（公正）	社会保障費を充実させるために消費税が導入された（資料）	消費税には、国民全体から確実に税を集める事ができるという効率の特徴がある（資料集）	消費税には、国民全体から集める事ができるという手続きの公正の特徴がある（資料集）	消費税には、収入が少ないと負担が大きくなるという結果の公正の特徴がある（資料集）	社会集団で生活する中で対立が生じ、それを解消することで合意に至る。（日常的な生活経験）	合意に至るまでに効率と公正の考え方が必要（教科書）	効率とは社会的に無駄がないこと（教科書）	公正には、手続きの公正と結果の公正がある（教科書）
税率を上げる				税率はそのまま												

○消費税率を上げる？上げない？ ()班

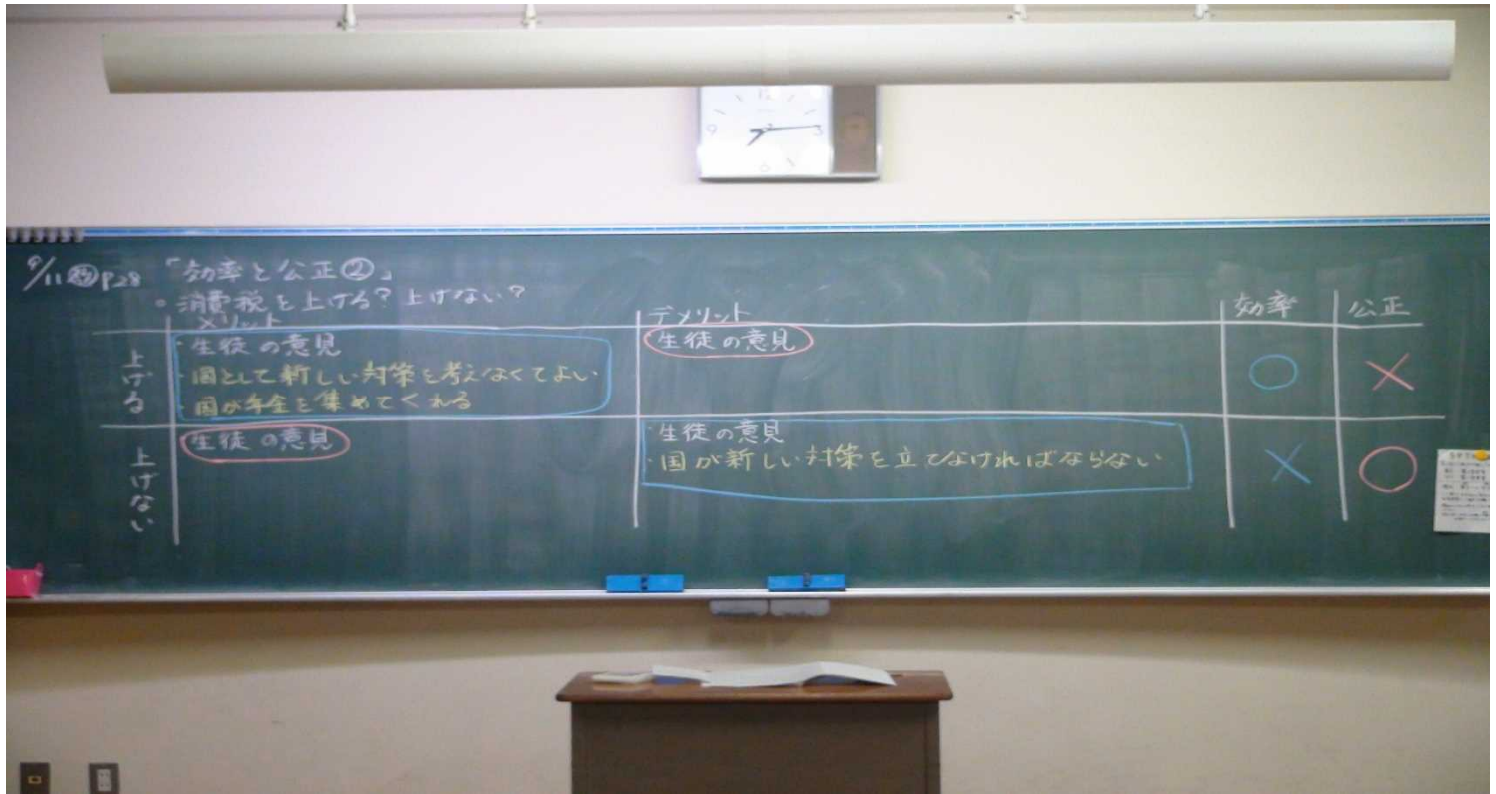
	メリット	デメリット		
上げる	・	・		
上げない	・	・		

○年金問題を解決するために消費税率は上げるべきだろうか？

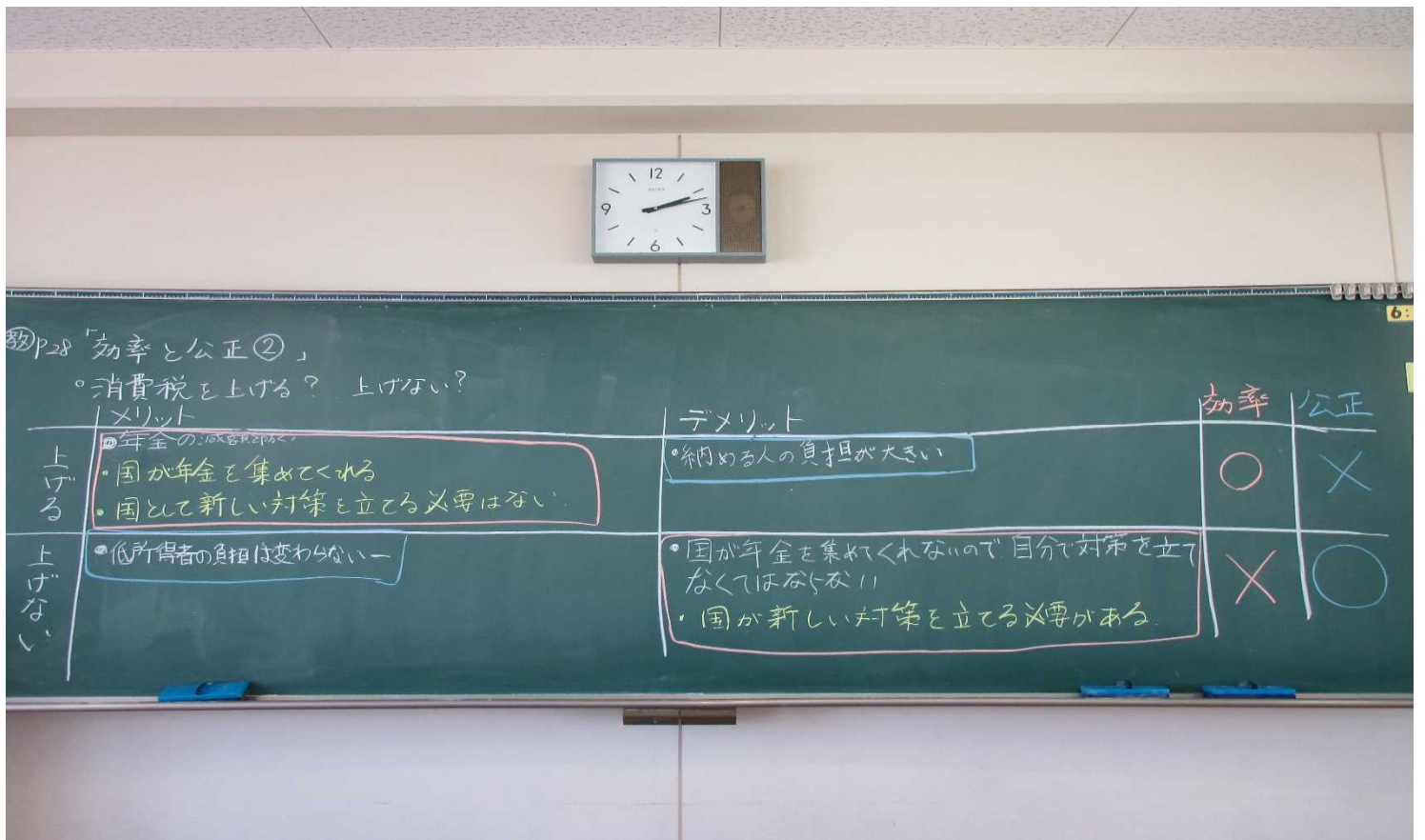
(上げる ・ 上げない)

「理由を効率と公正の考え方をもとに書きましょう」

「板書案」



「授業での板書」



V. 成果

習得した知識を活用する場面を授業に意図的・計画的に組み込み、「思考の方法」に着目した授業を開発、実践することができた。

習得した知識を活用するためには、習得すべき知識をあらかじめ授業者が整理しておかなければならない。従って、単元で習得すべき知識を「知識の構造図」という形で明らかにする必要がある。今回は、この「知識の構造図」を学習指導案に明示した。

また、板書の工夫も行った。板書は、生徒の思考の過程が表現されたものである。そこで、板書については、思考の過程を意識し、1時間の授業の流れが分かるように工夫した。例えば「比較」や「関連付け」の思考が可視化できるような板書を目指した。

これらのことにより、従前の授業に比べ、生徒の思考力は高められ、より説明力の大きい質の高い知識を習得することができたと考える。

研究組織

研究代表者	谷 聡	橿原市立白橿中学校教諭
研究分担者	土田 博敏	五條市立五條中学校校長
	東元 信浩	御所市立大正中学校校長
	中山 眞一	曾爾村立曾爾中学校教頭
	三宅 康文	上牧町立上牧中学校教頭
	島村 果苗	天理市立 南中学校教諭
	松林 和美	橿原市立橿原中学校教諭
	江上 寿哉	広陵町立真美ヶ丘中教諭
連携研究者	米田 豊	兵庫教育大学大学院教授
	小谷恵津子	畿央大学講師

(勤務先、職名は2016年3月現在)